

ESPEC

Corporate
Social
Responsibility

REPORT 2005



エスベック CSRレポート2005 contents

エスベック 環境写真コンテスト

エスベックでは、1997年よりエスベック環境強化週間を設け、社員の啓発をおこなっています。その一環として、環境写真コンテストを実施。社員はもとより仕入先の方々にもご応募いただいています。

当CSRレポートでは、各章のトップページに、2004年度に「自然」をテーマに実施しました環境写真コンテストの入選作品を使用しています。

トピックス	1
経営者の声明	2
エスベックの製品	4
エスベックの環境改善事業	6
エスベックの概要	8

社会的側面

1. ステークホルダーから信頼されるために	10
2. お客さまへの取り組み	11
3. 従業員への取り組み	13
4. 株主・投資家さまへの取り組み	15
5. 取引先さまへの取り組み	17
6. 快適な職場環境づくり	18
7. 社会貢献活動	18

環境的側面

環境マネジメントシステム

1. エスベック全社環境基本方針	20
2. 環境マネジメント活動概念	21
3. ISO14001一括取得	21
4. 環境マネジメントの体制・組織・責任	21
5. 事業活動と製品・サービスの影響評価	22
6. 法規制およびその他の要求事項	22
7. 緊急事態への準備	22
8. 環境マネジメントシステム監査	22
9. 教育・啓発	23

環境パフォーマンス

1. 物質フロー	24
2. 目標と実績(2000年~2003年)	26
3. 目標と実績(2004年)	27
4. 資源循環と地球温暖化防止への取り組み	28
5. 製品での取り組み	29
6. 開発設計段階での取り組み	30
7. 営業での取り組み	32
8. サービスでの取り組み	32
9. 物流での取り組み	33
10. オフィスにおける環境保全	33
11. 環境啓発活動	34
12. コミュニケーション	35
13. 外部評価	36

経済的側面

1. エスベックグループ体制図	38
2. 営業概況・財務ハイライト	38
3. 業績推移	39
4. セグメント別売上高構成比	39
5. 事業所一覧	40
6. サイト別データ	41
7. 環境会計	42
8. 算出根拠	43
9. 年表	44
10. CSRレポートの対象範囲	46

アンケート(挟み込み)
エスベックの森づくり

日本環境経営大賞「環境経営優秀賞」を受賞

エスペック株式会社は、日本環境経営大賞表彰委員会・三重県主催「第3回日本環境経営大賞 環境経営優秀賞」を受賞しました。表彰式は2005年6月10日 三重県「ホテルグリーンパーク津」で執り行われ 弊社社長 野路井 達 へ賞状を授与されました。



前列の左から4番目 弊社社長 野路井 達



ワールド・ソーラーカー・ラリー2004 クラス優勝

2004年8月3日、秋田県大潟村ソーラースポーツラインにて開催されたワールド・ソーラーカー・ラリー2004 (主催クリーンエネルギーアライアンス)、においてエスペックからの参戦チーム「チームESPEC」が、クラス優勝<ハーフサイズ・ストッククラス>をすることが出来ました。



レースの様相



優勝後スタッフ同の記念撮影



経営者の声明



代表取締役社長 野路井 達

野路井 達

エスペックは、環境試験器ならびに電子デバイス装置のトップメーカーとして、「環境創造技術をかなめに展開するサービスの提供」をミッションとして掲げております。将来にわたり成長・発展し続ける社会を築くため、企業に課せられている責任と使命を認識し、全てのステークホルダーの皆さまから信頼、安心、共感され支持される企業でなければならないと考えています。

エスペックは、1999年12月に、「高い社会性」と「普遍性を備えている」という二つの要素を重要な条件として、企業としての価値観を体系的にまとめ、あらゆる意思決定や活動の拠り所となる「THE ESPEC MIND」を制定しました。

「起点」では、最も基本的な考え方として「企業は公器である」、「エスペックはステークホルダーとの価値交換性の向上を目指す」ことを表し、「宣言」では、当社の経営活動において、私たち全員が尊重すべき事柄として「遵法」、「文化」、「人権」、「環境」、そして「啓発」の五つを挙げ、その実践を誓い、エスペックは、よき社会の一員として存在することを宣言しています。

その中の「環境」については、「単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはならない。いかに環境に役立つか、という視点こそエスペックたるゆえんである」と宣言しています。

つまり、エスペックにおいて「THE ESPEC MIND」の実践は、CSR（企業の社会的責任）の実践そのものであり、その取り組みがエスペックの企業価値の向上につながるものと認識しております。

2005年度は、2003年度に策定した3ヵ年経営革新計画「ESPEC 130プラン」の最終年度です。この計画においては、“革新的技術の創造で「環境優良企業」「グローバル企業」の実現”をテーマに掲げて企業活動を進めております。

これまでのさまざまな取り組みによる成果とともに、今後さらに、「環境マネジメントの質」「経済的成長・発展」「社会的公正・貢献」のバランスの取れた経営を推進し、社会になくてはならない存在感のある企業を目指していく考えてございます。

そのため、2005年度から、社長を委員長としたCSR委員会を設置し、組織を横断して統括、推進していく新しい体制を構築いたしました。ステークホルダーの皆さまから、より一層信頼されるグローバルカンパニー・グッドカンパニーの実現を目指し、良き社会の一員として社会のご期待にお応えできるよう長期的な視点で事業活動を推進してまいります。

今回、広くステークホルダーの皆さまに、当社のCSR活動をご理解いただくため、1998年より発行してまいりました「ESPEC環境マネジメントレポート」に「社会的パフォーマンス」「経済的パフォーマンス」の要素を加え、「Corporate Social Responsibility REPORT 2005」を発行するはこびとなりました。

このレポートを通じて、エスベックの社会・環境そして経済に対する取り組みをご理解いただければ幸いと存じます。

今後とも、皆さまのご理解とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。



環境試験器

例えば空港を飛び立ち、高度1万mの氷点下を経て、灼熱の空港へ着陸する飛行機。著しく変化する気象環境下でも、部品のひとつひとつが高い性能と品質を確保するためには、信頼性を確保する試験が不可欠です。その環境を人工的に創造する機器が環境試験器です。



恒温(恒湿)器 プラチナスKシリーズ



恒温(恒湿)室 ビルドインチャンバー

計測・評価システム

電子機器の高性能化・小型化による部品の複雑化・高密度化。それらは電子機器の信頼性評価のあり方にも影響を及ぼし、新たな評価項目を生み出す背景となっています。エスペックグループでは、電子機器の信頼性試験に適したシステムを提案しています。



イオンマイグレーション評価システム



プリント基板・はんだ導体抵抗評価システム



コンデンサ温度特性評価システム

自動化機器

無人化工場をめざして生産機器の自動化は進む一方です。エスペックグループは自動クリーン熱処理システムをはじめ、生産現場で信頼性確保に活躍する各種自動化機器を次々と開発。FAの確立にも大きく貢献するとともに、PDP/液晶ディスプレイの信頼性向上にも寄与しています。



自動クリーンキュアシステム



大型基板対応枚葉式縦型クリーンオープンHSCシリーズ

バイオ・サイエンス機器

エスペックグループは環境試験器で培った技術をライフサイエンスの分野にまでひろげています。

バイオテクノロジー研究のための各種の細胞培養器の提供から、人間を対象として各種の環境を人工的に再現する低酸素トレーニング室や人工気象シミュレーター等の納入を行っています。



炭酸ガス培養器シリーズ(近日発売予定)



低酸素トレーニング室



低酸素宿泊室



冷熱衝撃装置 TSAシリーズ



液槽冷熱衝撃装置 TSB



冷熱衝撃装置 TSD (近日発売予定)



恒温器 パーフェクトオープン

半導体関連機器

VLSIからULSIへ、また三次元回路素子へのアプローチ。半導体デバイスはますます高集積・高性能が進む一方です。エスベックグループの半導体関連機器は新技術開発から製造段階まで幅広い分野で、最先端の回路技術を支えています。



ダイナミック/モニタードバーンインシステム



AGV自動バーンインシステム

理化学機器

研究室や実験室で活躍する汎用理化学機器、技術革新があらゆる分野に進む今、その存在は重要性を増すばかりです。エスベックグループではこの理化学機器でも、ラボスターシリーズをはじめ数々の製品を提供。実験室や研究室の名アシスタントとして高い信頼をいただいています。



恒温恒湿器 (ラボスターシリーズ)



真空乾燥器

環境試験サポートサービス< 託験 >

エスベックグループがお届けする信頼性試験のサービス、それが託験です。エスベック環境試験技術センター株式会社は、特にIECQ独立試験所、JNLA (電気製品分野)、JCSS (湿度) の3分野においてISO/IEC17025による認定を受けており、試験・校正の両面で付加価値の高いサービスを提供いたします。

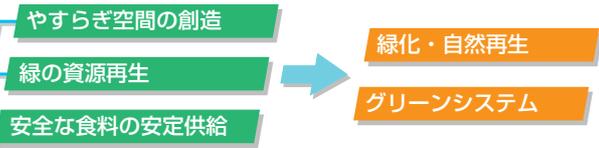


受託試験



トレーサビリティ・サービス

緑化・自然再生



エスペックグループでは、環境機器・バイオエンジニアリングの技術を活かし、森づくり、水辺づくり、植物生産システム、環境モニタリングシステムなど、環境を再生し育むさまざまな事業に取り組んでいます。

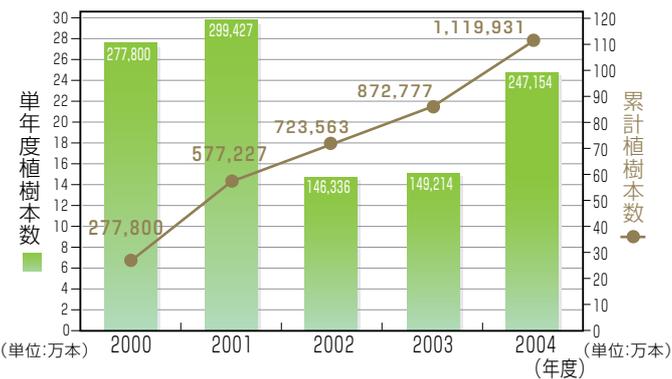
自然に近い植生を早期に再生する自然環境保全、防火や土砂流出を防ぐ防災林、街路樹や工場緑化など都市の景観に役立つ緑化、また植物による多自然型川づくりなど、緑化やそれともなう環境分析などをシステムティックに実現することができます。



森づくり



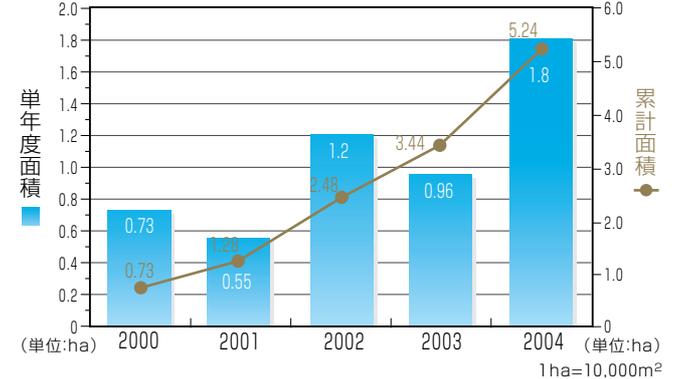
「幼苗植栽手法による郷土の森づくり」は潜在自然植生のデータをもとにし、自然植生の再現をめざした森づくりをおこないます。



水辺づくり

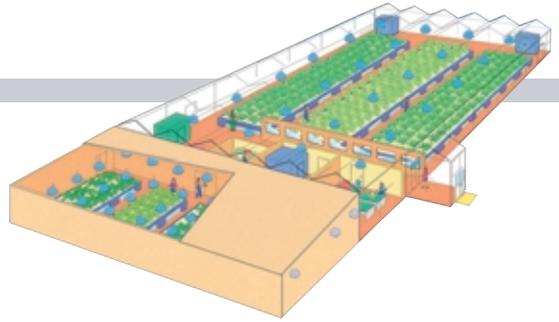


水生植物を活用した水辺の自然環境復元、植生護岸の形成、水質浄化をおこなうベストマンシステムにより、技術コンサルティングと植物製品の提供、販売をおこなっています。



グリーンシステム

グリーンシステムは、光・温度・湿度・炭酸ガス濃度などの地上部環境と、土壌・溶液濃度などの地下部環境をコントロールすることで、苗生産・栽培を安定して効率よく行うシステムをご提供いたします。



アグリガラス温室



育苗・培養室(人工光型施設)



コンテナ式植物栽培装置



環境制御システム

環境測定・分析分野



環境測定機器

環境分析を行う場合、長期にわたり温度や湿度、雨量などの環境因子の測定をおこなわなくてはなりません。エスベックグループは、コンパクトで長期間の使用にも耐えられ収集データの記憶、しかも遠隔地に設置した場合でもデータを自動転送する通信機能を備えた環境計測装置をご用意いたします。



サーモレコーダーシリーズ



クラムプロレコーダー



レインフォールレコーダー

計量証明

河川・湖沼・海洋・工場排水などの水質、土壌や底質、あるいは工場や事業所から排出されるばい煙・ばい塵や大気環境、騒音の測定・調査・分析を行います。環境保全が必要とされるあらゆる分野で要望が高まっています。

また、環境マネジメントシステム<ISO14001>の認証取得を目指している企業へのサポートも実施しています。



京都環境計量センター

生活・産業環境保全分野



水・土壌・空気浄化システム

エスベックグループは工業廃水、試験・研究排水、病院排水などのさまざまな処理やリサイクルをおこなう、排水処理関連機器をご提供いたします。わたしたちが掲げる「水資源のゼロエミッション」は、かけがえのない地球環境保全への第一歩です。

現在、クローズアップされている土壌汚染。焼却残さや工場廃液が土壌を汚染し、さらに地下水までも汚染しはじめています。エスベックグループでは、この汚染土壌・地下水を浄化する「汚染地下水浄化工法」(特許申請中)の技術開発に取り組んでいます。これは、汚染地下水を、微生物を固定した浸透性バイオ壁によって浄化し、地下水の流れを阻害せず周辺の地下環境の保全に対しても有効です。

また、わたしたちの生活空間や作業・生産現場における空気環境は、目に見えないところで悪化して、わたしたちの身体を蝕んでいます。エスベックグループはこのようなわたしたちの身の回りを守る、空気環境改善を行うシステム機器をご提供いたします。



エスペックは、気象環境などを再現する「環境試験装置」を製造・販売しています。

例えば、極寒の地を飛び立ち、数時間後には灼熱の空港に降り立つ飛行機は、短時間に100℃近くの熱ストレスにさらされます。このストレスは、製品・部品の品質や信頼性に大きく影響を与えます。

他にも、湿度、雨、雪、光、振動、圧力など。これらを装置内で再現し、品質保証や信頼性確保に役立てていただく装置が「環境試験装置」です。

この技術は、半導体、液晶などの高度な生産技術、生産性にも大きく寄与しています。

■会社概要(平成17年3月31日現在)

社名	エスペック株式会社
英文社名	ESPEC CORP.
創業	昭和22年 7月25日
設立	昭和29年 1月13日
資本金	6,778百万円
従業員数	1,187名(連結)、564名(単独)
URL	http://www.espec.co.jp/

主な事業所

本社	大阪市北区天神橋3丁目5番6号
東京支社	東京都港区港南2丁目15番1号 品川インターシティA棟12階
営業拠点	仙台・さいたま・東京・名古屋 大阪・広島・福岡
工場その他事業所	福知山・宇都宮・東京・神戸

主な子会社 および関連会社

エスペックグループ(国内)

エスペックエンジニアリング株式会社
エスペック環境試験技術センター株式会社
エスペック関西株式会社
エスペックビジネスクリエイト株式会社
エスペックミック株式会社
株式会社アポロメック

エスペックグループ(海外)

ESPEC NORTH AMERICA, INC.
ESPEC EVALUATION & TEST SYSTEMS, INC.
SHANGHAI ESPEC ENVIROMENTAL
EQUIPMENT CORP.
GUANGZHOU ESPEC ENVIROMENTAL
EQUIPMENT CO., LTD.
ESPEC ENVIROMENTAL EQUIPMENT
(SHANGHAI) CO., LTD.
ESPEC TEST TECHNOLOGY
(SHANGHAI) CO., LTD.
ESPEC ENVIROMENTAL PROTECTION
(HANGZHOU) CO., LTD.
ESPEC (MALAYSIA) SDN. BHD.
ESPEC KOREA CORP.
ESPEC (CHINA) LIMITED

■役員(エスペック株式会社 平成17年6月24日現在)

代表取締役社長	野路井 達
代表取締役	進 信義
取締役	檜作 榮四郎
取締役	佐波 正志
上席執行役員	中井 良雄
上席執行役員	福本 博道
上席執行役員	石田 雅昭
上席執行役員	三枝 雅貴
執行役員	水野 浩三
執行役員	桐村 均
執行役員	島田 種雄
執行役員	石井 邦和
執行役員	曾田 聖二
執行役員	久保田 靖文
執行役員	一色 直樹
執行役員	山口 高司
常勤監査役	廣 信義
監査役	吉岡 昭一郎
監査役	松村 安之

注) 1. 取締役 佐波正志氏は、商法188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役であります。
2. 監査役 吉岡昭一郎氏および松村安之氏は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。



2004年度 エスペックグループ環境強化週間
環境写真コンテスト

大賞作品「長谷の棚田1」

西日本富士電機株式会社（取引先様）
石道 英生

社会的側面

1. ステークホルダーから信頼されるために	10
2. お客様への取り組み	11
3. 従業員への取り組み	13
4. 株主・投資家さまへの取り組み	15
5. 取引先さまへの取り組み	17
6. 快適な職場環境づくり	18
7. 社会貢献活動	18

1.ステークホルダーから信頼されるために

エスペックのCSRの考え方

「THE ESPEC MIND」の制定

エスペックは、1999年12月に、「高い社会性」と「普遍性を備えている」という二つの要素を重要な条件として、企業としての価値観を体系的にまとめ、あらゆる意思決定や活動の拠り所となる「THE ESPEC MIND」を制定しました。基本的な考え方として「企業は公器である」、「エスペックはステークホルダーとの価値交換性の向上を目指す」を掲げ、良き社会の一員として存在することを宣言しています。

エスペックは、この「THE ESPEC MIND」の精神に従い、全ての事業活動を推進することがCSRの向上につながると認識しています。



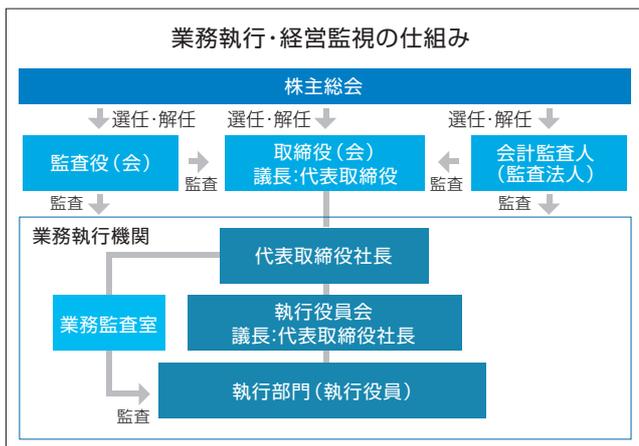
「THE ESPEC MIND」

コーポレート・ガバナンス

エスペックは、コーポレート・ガバナンスを強化することで、グローバル企業として競争力を高め、経営方針である「ステークホルダーとの価値交換性の向上」の実現を目指してきました。権限と責任の明確化、意思決定と実践の迅速性を高めるために、2002年4月より、業務執行機能と経営監視機能を明確に分離した執行役員制度を導入しました。執行役員には40才代を中心に選任するなど、経営体制の大幅な若返りと意思決定・業務執行のスピードアップを推進しております。また、取締役は4名へと少人数化し、監査役3名からなる監査役会とともに、業務執行の監督・監視に携わっています。

2005年6月の定時株主総会では、経営の透明性を高めるために社外取締役、社外監査役を新たにそれぞれ1名ずつ選任予定しています。

エスペックは、今後もより社会性・透明性・効率性の高い経営体制の確立を目指し、コーポレート・ガバナンスの強化に努めていきます。



リスクマネジメント

リスク管理体制への取り組みとして、情報セキュリティの確保と情報の有効活用を目的として、2004年9月に情報管理委員会を発足し、2005年4月の個人情報保護法の完全施行にあわせて、情報セキュリティ管理体制の構築に努めてきました。

2005年3月には、情報管理規定として「情報セキュリティ基本方針」「情報セキュリティ管理規定」「個人情報保護規定」を制定し、「情報セキュリティ委員会」の設置など管理体制を組織化しました。また、管理・監督者を対象に、個人情報保護法と情報セキュリティに関する研修会を開催するなど、従業員の教育・啓発や全社の情報管理レベルの向上に向け積極的に取り組んでいます。

トップコミュニケーション

経営方針や課題、改革・変革の必要性や取り組みなどを社員に伝えるために、毎週火曜日、社内ホームページ上にて、社長通信「すすめーる」を発行し、情報の共有化や社員一人ひとりの意識改革に結び付けています。

また、一方的に発信するだけでなく、「現場の声」を聞く「社長懇談会」を開催しています。社員と直接向かい合い、現場の悩み、提案や要望などを聞き、新たな課題は「すすめーる」で紹介し、必要なものはすぐに経営活動に取り入れています。

エスペックは、事業活動において経営層と社員間の「本気(双方向)のコミュニケーション」が重要だと考えており、経営層の意思を社員に浸透させるとともに、社員の意見を経営に活かすことで、高い信頼関係と風通しの良い社内風土の醸成に努めています。



社長通信「すすめーる」

2.お客さまへの取り組み

製品・サービスの品質保証

品質方針

先端技術の開発競争やPL法への対応など、企業にとって「品質保証」というテーマはますます重要性を増しています。エスペックは、この品質保証活動の中核を担う信頼性試験を行うための装置「環境試験器」を提供しており、エスペック製品のクオリティがそのままお客さまの製品のクオリティに直結していること、また、その重責を担っていることに、エスペックの存在意義があると考えています。

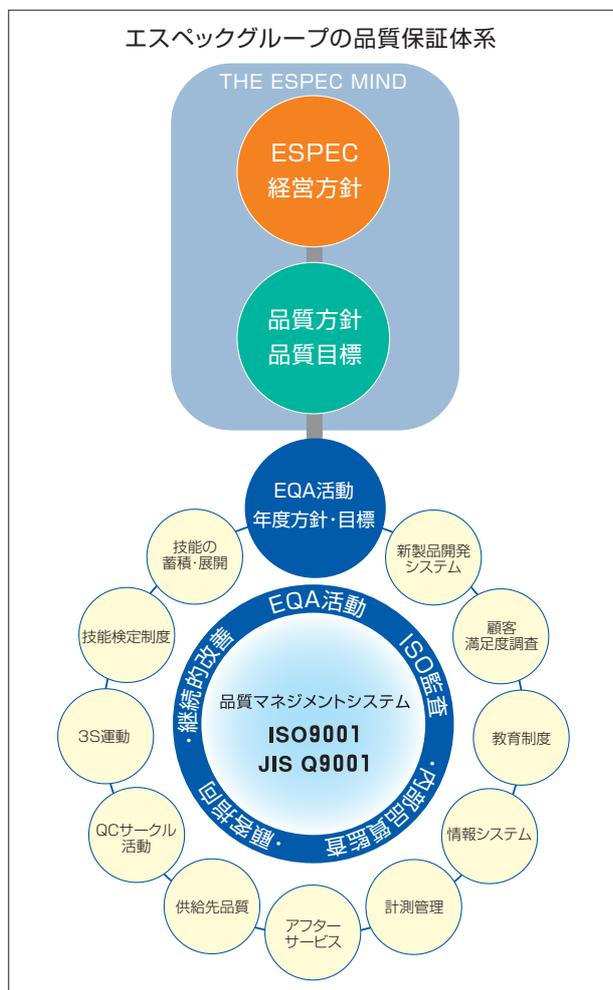
当社は、「お客さまへ安全、快適、確実に使命をはたす、より確かな製品とサービスの提供」を品質方針として掲げ、グローバルカスタマーの期待に応える高品質製品の実現に向け、日々取り組んでいます。

品質保証体制

エスペックは、企業のグローバル化に対応すべく、国内外においてEQA(ESPEC Quality Assurance)と呼ばれる独自の品質保証体制を確立しました。

また、2000年には、1993年に国内他社に先駆けて取得している品質国際規格「ISO9001」の2000年度版対応を行うなど、品質保証体制の「継続的改善」を実施し、エスペック製品のさらなる品質向上に努めています。

エスペックは、確かな技術と国際レベルでの品質保証体制で、お客さまの信頼・要望にお応えしています。



QCサークル活動

エスペックでは、生産現場を中心にQCサークル活動が活発に行われています。2004年度は44サークルが活動しており、勉強会や成果発表会を随時開催しています。当社のQCサークルは、過去に「QCサークル近畿支部支部長特別賞」、「支部長奨励賞」、「支部長賞」等を多数受賞しています。また、2003年には、当社の代表取締役の島崎が、永年のQCサークル活動への指導・育成、近畿地区のQCサークル発展への貢献が評価され、財団法人日本科学技術連盟主催の「QCサークル経営者賞」を受賞しました。

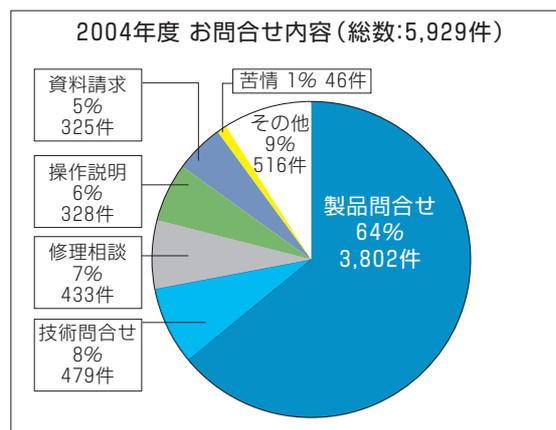
技能検定

技術者の技能向上を目的に社内技能検定・国家技能検定の取得を推進しています。社内技能検定は、9分科会で30科目の技能検定が実施されており、現在までに1,136名の技能認定者を輩出しました。また、国家技能検定では、現在までに199名が技能士の資格を保有しており、職業技能訓練指導員についても24名が登録されています。

サポート体制

カスタマーセンター

2003年にカスタマーセンターを開設し、全国のお客さまや代行店さまの問合せにダイレクトにお応えするサービスを開始しました。2004年度は製品仕様や技術的問合せ、資料請求、不具合・苦情の受付など年間約6,000件について対応しました。



また、これまで代行店さまからのご注文については、担当営業所において発注業務を行っていましたが、2004年度より、お客さまへの迅速かつ適切な対応の実現を目的に、ご注文を直接お受けするセンターセールスを開始しました。

カスタマーセンター

フリーダイヤル	0120-701-678
FAX	06-6358-4464
営業時間	9:00 ~ 17:00 (12:00 ~ 13:00 を除く) ※土、日、祝祭日、当社指定日を除く

2.お客さまへの取り組み

アフターサービス体制

研究開発や生産工程においてご使用いただいているエスベック製品は、どんな些細なトラブルもお客さまの貴重な時間やコストのロスにつながりかねません。そのため、エスベックでは、全国に22拠点ものサービスネットワークを構築。24時間フルタイムの技術対応サービスを行うなど、お客さまの故障に対して迅速に対応し、安心・安全をお届けしています。

また、全ての保守契約製品をサービスカルテデータで管理することにより、適切な予防保全や製品の改善・改良、固有技術の確立などにも役立てています。

エスベックでは、製品突発故障の90%以上を、3日以内で修理対応しており、その迅速な対応はお客さまから高い信頼と評価をいただいています。



顧客満足度向上に向けて

顧客満足度調査の実施

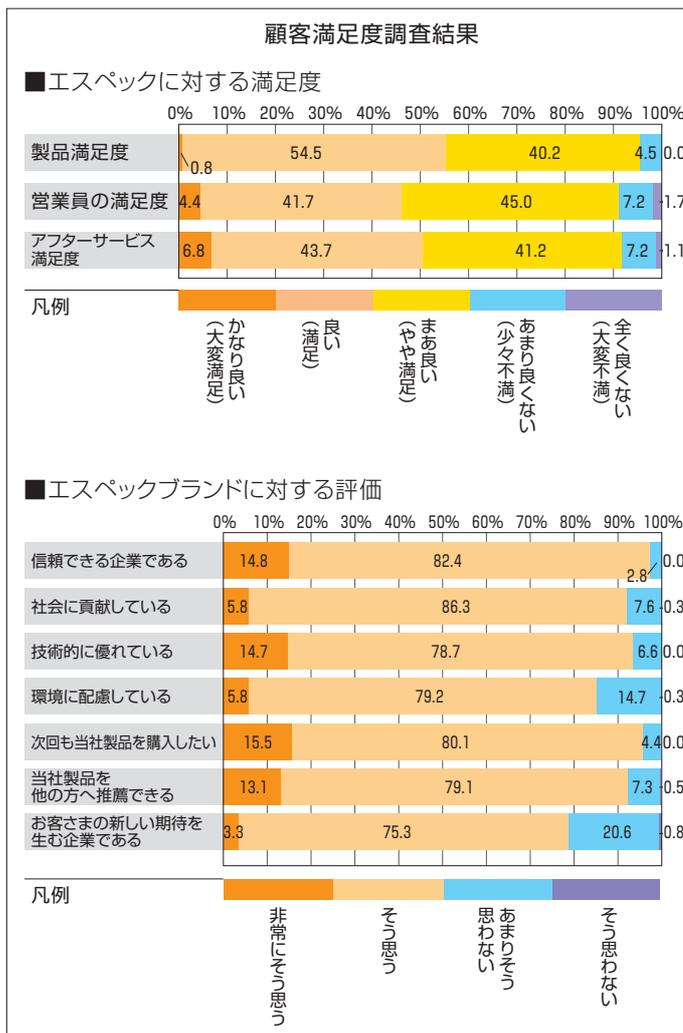
2004年、お客さまの当社に対する意識・評価を的確に把握するため、アンケート形式による顧客満足度調査を初めて実施しました。

このアンケート調査では、2003年度に当社製品を購入いただいたお客さま1,000名の内、416名(回答率41.6%)と多くの方々から回答をいただきました。

アンケートを通していただいた、お客さま一人ひとりの声や評価に真摯に耳を傾け、みなさまにご満足いただける製品・サービスを目指して、さらなる質の向上・改善に努めていきます。

お客さまの声を活かすために

エスベックでは、カスタマーセンターや顧客満足度調査、営業活動などを通じていただいたお客さまからの貴重な意見や要望を各事業部門にフィードバックする体制を構築しています。また、現場の課題やニーズを経営や企業活動にフィードバックするQMI(クイックマーケットインテリジェンス)活動により、次世代の需要をいち早くキャッチし、事業開発や技術開発に役立てています。



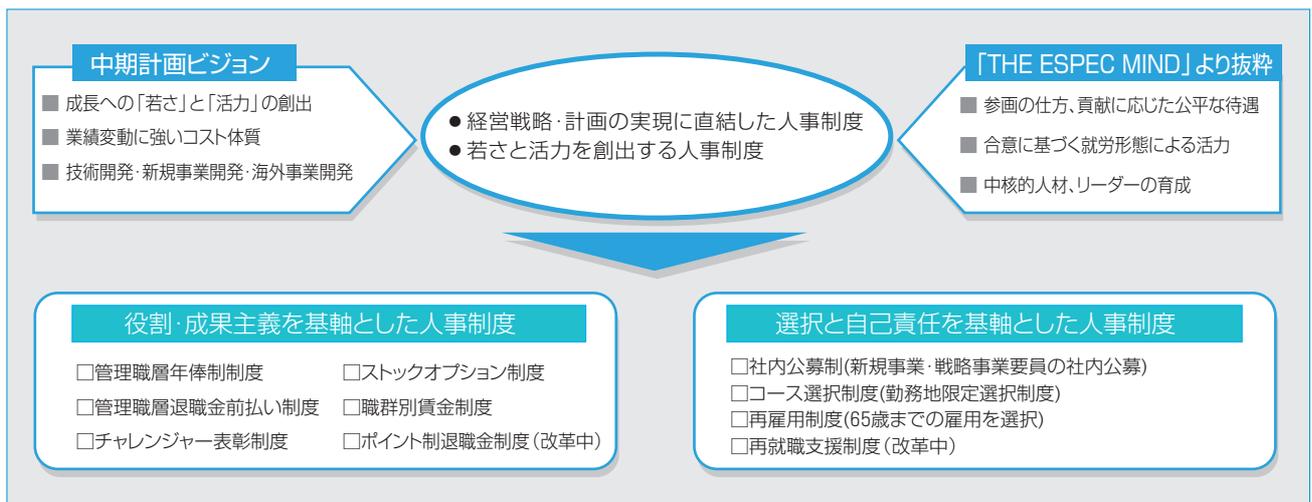
3.従業員への取り組み

人事方針

会社の盛衰は「人」で決まります。会社にとって「人」が中心であり、「人」重視の経営こそが会社発展の原動力です。社員が働いて、楽しいエキサイティングな会社でありたい。社員が主役の会社でありたい。というのが根本の考え方です。

また、人材マネジメントの基本として、「人間尊重」、「役割・成果主義」、「選択と自己責任」という3つの方針に基づき、個人の成長が会社の成長に繋がる、そんな関係を大切にしたい人材マネジメントに取り組んでいます。

人事制度の基本方針



人事制度

若さと活力を生み出す人事制度

エスペックは、「若さ」と「活力」の創出を人事制度の基本方針に、「役割・成果主義を基軸とした人事制度」および「選択と自己責任を基軸とした人事制度」を2本の柱として、役割と成果に応じたメリハリのある、かつ透明性のある処遇システムの構築により組織活力の創出に努めています。

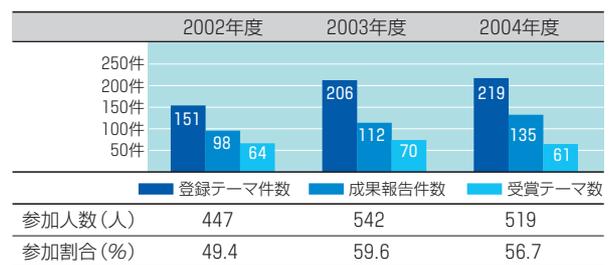
また、参画感の持てるチャレンジシステムにより自己実現と成長を促進するとともに人材の発掘も図っています。これからもグローバル化の進展や労働感の多様化・個別化へ対応し、社員一人ひとりがより働きがいを感じることが出来る人事制度を目指し、さらなる改革・改善に取り組んでいきます。

新人事制度(職群別賃金制度)を導入

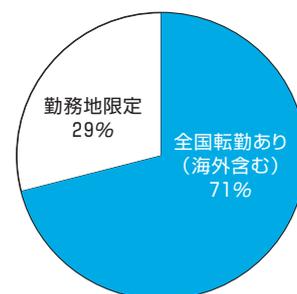
2005年4月、一般社員を対象に、スキル活用型のS(skill)職群と成果指向型のD(development)職群を新設しました。

成果指向型のD職群は、企画・開発系職種を社員を対象とし、成果と役割に応じて変動する役割給と時間外を定額化したD職群手当が支給されます。これにより、従来の「時間軸」中心から「成果軸」にシフトした働き方と貢献が求められることとなります。なお、職群選択には社員本人の希望が反映されます。

チャレンジャー表彰制度
過去の登録状況



コース選択制度(勤務地限定選択制度)
選択状況



2005年3月現在

3.従業員への取り組み

人材育成

成長と進化を目指す教育制度

エスベックは、すべての仕事に「経営マインド」を持ち、「開発型」の行動ができる人材の育成に努めています。また、次代の経営陣育成を目的とした研修制度「ESPECインスティテュート」により、「独自性」「実行力」のある経営のプロフェッショナルを育成しています。

自己啓発においては、エスベック独自の教育システムである「エスベック・トレーニングセンター（ETC講座）」を休日（土曜）に開催し、先輩社員が講師となって、専門知識やノウハウを若手社員に教えています。

すべての教育のスタートは「本人の自覚と意識」と「自己啓発」が基本となりますが、社員一人ひとりの「成長と進化」を願い、グローバルに通用する「プロフェッショナルな人材づくり」に取り組んでいきたいと考えています。

労使関係

エスベックとエスベック労働組合は労働協約と相互信頼に基づいた健全な労使関係を維持しており、労使対等の立場でさまざまな労使課題に取り組んでいます。特に重要な労働条件の変更や人事制度の改定にあたっては、労使で専門委員会を設置し、十分な話し合いを通じて、労使双方が納得できる解決を図るようにしています。

労使の定期的な情報・意見交換の場として、毎月「労使協議会」を開催しており、会社からは経営の状況について報告するとともに、労働組合からは労働環境・条件等の問題について報告し、労使相互の課題について共有するようにしています。また、この会議はコーポレート・ガバナンスの観点からも、労使双方の牽制の場として重要な役割を担っています。

また、組合執行部から組合員に対して随時機関紙が発行され、タイムリーな情報提供により経営参画意識の向上も図っています。

雇用

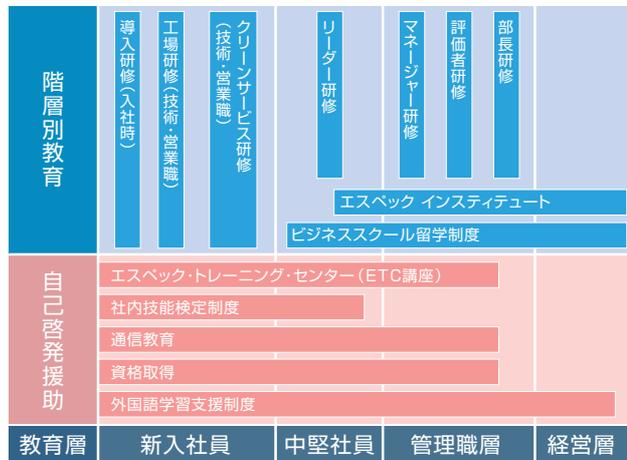
雇用の基本方針として「合意に基づく就労形態による活力」を掲げており、本人の価値観や求められる使命・役割、育児の状況等に応じた多様な雇用形態を備えるようにしています。

要員の確保にあたっては、経営方針に則した中長期的視点から計画的かつ継続的に補充・補強を行っており、募集、情報提供、面接・試験等の採用活動、および労働条件においても、男女雇用機会均等法を遵守し、性別による格差は一切ありません。

身体障害者の雇用については、現在の雇用率は1.8%と法定雇用率を満たしておりますが、今後も職場環境の改善や職務の見直し等に取り組む、できるだけ多くの雇用を確保していききたいと考えています。

高齢者の雇用については、定年退職者の再雇用制度により、公的年金の支給開始年齢の引き上げに合わせ、段階的に65歳までの雇用を確保するようにしています。

エスベック教育訓練体系

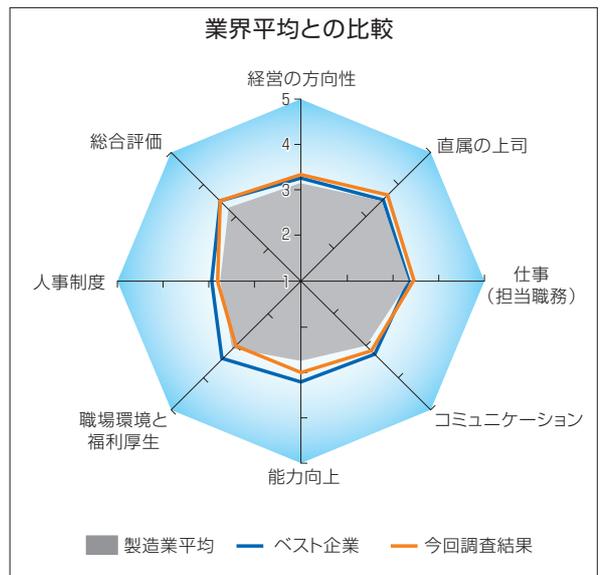


従業員満足度調査

2004年度より第三者機関による従業員満足度調査を実施しています。ねらいとしては、従業員満足度の向上のための取り組みを、経営品質の向上にも生かしていくことであり、調査結果は次のような視点から会社の施策や制度の改善に活用します。

- 職場環境への反映
- 社員の教育・研修計画への反映
- 人事制度への反映

初回の総合評価ではベスト企業とほぼ同等の満足度を示しましたが、継続的に改革・改善を図り、さらなる納得性と満足度の向上に向けて継続的に取り組み、魅力ある職場づくりに生かしていきたいと考えています。



4.株主・投資家さまへの取り組み

基本方針

エスペックは、より良き社会の一員として、エスペックのあらゆるステークホルダー（利害関係者）とのより良い関係の構築（価値交換性の向上）や社会的責任を果たすことを企業理念として掲げています。株主のみならず、投資家のみなさまとのコミュニケーションをより良好に行うためのIR活動についても、その理念を踏まえ、「IRポリシー」として明文化し、活動の規範としています。

なお、「IRポリシー」はエスペックホームページ（<http://www.espec.co.jp/>）に掲載し、周知徹底を図っています。

IRポリシー

制定:2004年9月1日

1. IRの目的と基本姿勢

当社のIR活動は、株主や投資家を含む当社のあらゆるステークホルダーのみなさまに、当社に対する理解を深めていただき、当社の企業価値を正当に評価していただくことを目的としています。

そのために、業績の好不調に関わらず首尾一貫して、正確な企業情報を誠実、公平かつタイムリーにお伝えすることを基本姿勢としております。

2. 情報開示の基準と方法

当社は、商法・証券取引法等関係法令、証券取引所の定める適時開示規則等に従って、情報開示を行っております。また、同規則に該当しない情報についても、当社を理解していただく上で有効な情報は、積極的かつ公平に情報開示をしております。

適時開示規則に該当する情報の開示は、同規則に従い、東京証券取引所および大阪証券取引所の提供するTD-NETおよびED-NETにて公開いたします。また、必要に応じ、情報開示後速やかに当社ウェブサイトに掲載いたします。

3. IRポリシーの社内徹底について

当社は、IRポリシーを社内に浸透させ、周知徹底を図るとともに、アナリストや各種調査機関等からの問合せについては、IR担当者が一元的に対応するものとします。これは、信頼できる情報を公平に発信することと、当社とその社員を証券取引法などの法的責任から保護することを目的としています。

4. 将来の計画・業績予想について

当社が開示した情報の中に、業績予想など将来の見通しについての記述が含まれている場合があります。これは、その時点で入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであり、実際の業績などは、様々な経営環境の変動によって、計画と異なる場合があります。そのため、将来の見通しの記述に対し、当社はその実現を確約したり、保証するものではありません。

5. 沈黙期間の設定

当社は、決算発表準備期間中に株価に影響を与える情報の漏洩防止を目的として、決算期日（中間・四半期を含む）から決算発表日までを「沈黙期間」としています。この期間中は、決算に関する質問への回答やコメントを控えさせていただきます。ただし、業績予想を大きく外れる見込みが出てきた場合には、開示規則に従い、適宜情報開示を行います。

株主・投資家さまとのコミュニケーション

開かれた株主総会の実現に向けて

エスペックは、株主総会を株主さまと直接対話のできる貴重な機会であると考えています。

近年は、より多くの方にご参加いただけるよう、集中日を避けて株主総会を開催しています。また、総会終了後には、株主懇談会を実施。社長よりエスペックの事業内容などについて詳しくご説明させていただくとともに、株主さまと当社役員とで活発な意見交換を行っています。2004年度は、上記に加え、リニューアルしたばかりの本社ショールームに株主さまをご案内しました。



株主総会後のショールーム見学

機関投資家・証券アナリスト向け会社説明会の実施

機関投資家・証券アナリストの方を対象に、決算説明会を実施しています。また、個別面談につきましても、随時実施しています。

個人投資家向け会社説明会の実施

エスペックは、みなさまにとって、より公平で公正な企業でありたいと考えています。個人投資家さまに対しても、会社説明会を実施しています。2004年度は、大阪と名古屋において開催し、両説明会とも400名を超える多くの投資家さまにご参加いただきました。



個人投資家向け会社説明会

4.株主・投資家さまへの取り組み

IR 活動の充実に向けて

エスペックは事業報告書、アニュアルレポート(年次報告書)、ホームページをはじめとするIRツールにおいても、一層の充実に努めています。

2004年9月には、みなさまが情報をタイムリーに入手できるよう、ホームページ(<http://www.espec.co.jp/>)のリニューアルを行いました。財務情報はもとより、決算説明会資料、中期経営計画の内容を掲載するなど充実を図っています。この積極的な情報開示が評価され、エスペックのホームページは、大和インベスター・リレーションズ社が主催する「2005年インターネットIRサイト優秀企業賞」を受賞しました。



株主・投資家さまのご意見をフィードバック

エスペックは、事業報告書の送付時に株主さまを対象としたアンケートを実施しているほか、会社説明会の開催時などにも投資家さまのご意見を収集しています。そして、これらの分析結果を「IRレポート」としてまとめ、社内向けに年2回発行しています。株主・投資家さまのエスペックに対する評価やご意見をフィードバックすることで、自らの課題を浮き彫りにし、今後のIR活動、経営の質の向上に努めています。

情報開示

エスペックの情報開示に対する基本的な考えは、「IRポリシー」にも掲げているとおり、商法・証券取引法等関係法令、証券取引所の定める適時開示規則等に従って、正確な企業情報を誠実、公平かつタイムリーにお伝えすることです。その旨は、証券取引所の要請に従って2005年2月に提出しました「適時開示に係る宣誓書」でも明記しています。2005年3月には、情報開示にかかわる内部統制を強化するため、情報開示規定を制定しました。また、2005年4月には、「情報開示委員会」を発足し、社内体制の充実を図っています。

株主さまとともに

投資単位の引下げと売出しにより株主数が増加
エスペックは、投資家層の拡大と株式流動性の向上は資本政策の重要課題であると認識しています。

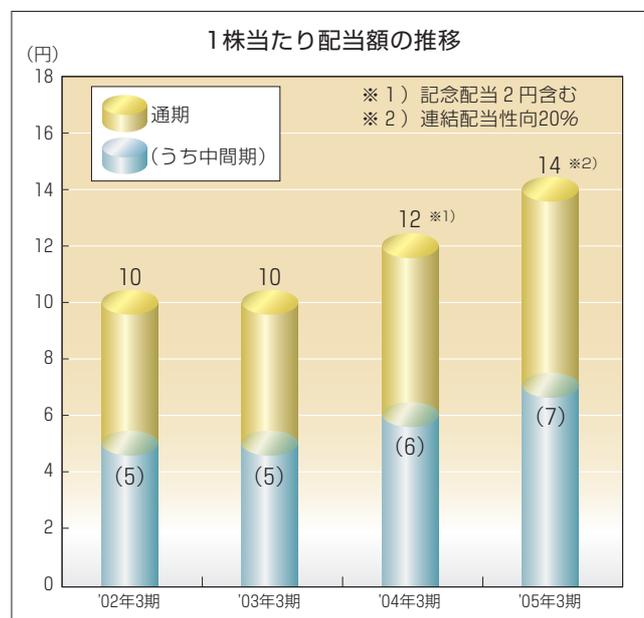
2004年9月、個人の投資家さまに投資していただきやすいよう1単元の株式数を1,000株から100株に変更しました。また、2004年11月には、市場での知名度向上と流動性拡大を目的に165万株の株式売出しを実施しました。これらの結果、2005年3月末現在の単元株主数は5,292名と、前期末現在の2,601名から約2倍に増加し、出来高も大幅に増加しました。



連結当期純利益の20%前後を配当し利益還元

エスペックは、永続的な企業価値の向上が株主利益向上の基本であると考えるとともに、株主のみなさまへの利益還元を経営の重要課題と認識しています。

配当金につきましては、各年度の連結業績を重視し、配当性向20%を目安として配当を決定します。また、万が一業績が悪化する場合においても一定水準の配当を実施します。2005年3月期の年間配当金は、前期に比べ2円増配の1株あたり14円で、配当性向は20%となりました。



5.取引先さまへの取り組み

基本方針

エスペックは関係法令を順守し、公正・公平な取引関係のもと、グローバルな市場から必要な資材・サービスなどを適切な品質、価格、納期などを総合的に判断し調達します。また、資材調達活動を通じて、お客さま・取引先さまの満足とエスペックグループの企業価値の向上に努めています。なお、「資材調達の基本方針」は、エスペックホームページ (<http://www.espec.co.jp/>) に掲載しています。

【資材調達の基本方針】

1. オープン

品質がよく経済的でかつ安全な資材を適切な納期で購入するために国内外を問わず、広く購入する方針です。

2. 公正・公平

取引先の選定については、品質、価格、納期、アフターサービス、技術力、経営状態などを総合的に勘案して経済合理性に基づいて公正、公平に選定します。

■品質

購入資材すべてが、当社の要求する品質レベルをクリアする必要があります。したがって当社と同じレベルの品質管理体制を持っている必要があると考えています。

■価格

購入資材の価格は、当社製品の価格競争に大きく影響します。購入する資材それぞれが、市場価格動向に照らして価格競争力を保持していることが重要です。

■納期

契約した納期を遵守することは当然として、市場の変化に柔軟に対応できる納期対応能力を期待しています。また、リードタイムの短い生産能力についても期待しています。

■アフターサービス

修繕時において、必要な部品、技術的援助を迅速に提供していただくことが必要です。

3. 法令の順守

取引を行うに当たって、当社はわが国の関係法令およびそれらの精神を順守します。取引先の皆様にもこれらを順守していただきます。

4. 相互信頼

公正な取引を通じて、取引先の皆様との相互信頼関係を築き、相互の発展を図ることを願っております。このため、取引先に公正誠実に対応するとともに、購買活動により得られた機密情報を、取引先の承諾もなく他に漏らすことはいたしません。同様に取引先の皆様も、これを守っていただきます。

5. グリーン調達

当社は、環境保護が世界の重要課題の一つであり、企業経営の基本であることを認識し、環境への汚染防止に努めるとともに、グリーン調達を積極的におこないます。

取引先さまとのよりよい関係を目指して

エスペック共栄会

エスペックでは、1981年より取引先さまとエスペックとの相互信頼の構築、および共存共栄を目的とした「エスペック共栄会」を組織しており、現在は42社の取引先さまに参画いただいています。この「エスペック共栄会」では、経営やコスト戦略について学ぶセミナーや工場見学などを年4回実施しているほか、QCサークル活動に関する勉強会を毎月実施するなど、さまざまな活動を展開しています。エスペックでは、これらの活動を通して、会員企業さまの経営品質の向上を図るとともに、相互理解を深めています。

エスペック優良取引先表彰制度

エスペックでは、多大なご協力を賜った取引先さまに感謝の意を表することを目的に、2003年度より「エスペック優良取引先表彰制度」を導入しています。2005年4月に行われた当社の2005年度の経営方針および資材調達方針発表会の場において、2004年度の社長賞および優秀賞受賞企業を表彰させていただきました。

グリーン調達

エスペックは2000年に「エスペックグリーン調達基準書」を制定し、エスペック共栄会を含む資材調達先に対するグリーン調達を実施しています。グリーン調達取引先の認定基準には「ISO14001」あるいは「環境活動評価プログラム（エコアクション21）」の認証取得、または、これらの簡易版「エスペック・エコ・スタンダード」による環境保全活動の実施を求めており、実現のために講習会・現地指導による活動支援を行っています。現在仕入高の80%を占める主要仕入先100社がエスペックグリーン調達取引先の認定基準を満たしています。

6. 快適な職場環境づくり

安全衛生管理

エスベックは安全衛生活動を遂行する上で関連するあらゆる法令を順守することはもとより、安全衛生管理規定を定めるとともに倫理的な見地を重視した自主的取り組みを推進しています。

安全衛生活動

主要事業所毎に安全衛生委員会を設置し、委員による事業所内の安全パトロールを行うなどにより労働災害の撲滅、労働環境の改善に努めています。

1. ビル管法に基づく空気環境測定・水質検査・防虫防鼠などの実施
2. 従業員の健康診断と喫煙に関する対応
3. 消防法に基づく防火管理活動の実施（消防計画の策定、自衛消防隊の組織、消防設備の点検、消防訓練の実施）
4. 交通安全対策会議の取り組みによる交通事故の撲滅

3S（整理・整頓・清掃）の推進

エスベックでは、3S推進委員会を組織し、各職場のリーダーを中心として職場の問題点の抽出、改善の計画・実行を行うことで、より安全・快適・能率的な職場、改善意識のある職場、自由闊達な職場を目指しています。



3S前



3S後

メンタルヘルスケア体制の確立

近年社会的に増加している精神障害への対策として、2005年6月より従業員とその家族を対象としたメンタルヘルスケア体制を確立しました。

ストレス診断の実施結果を分析して部署毎の傾向などを把握した上で管理職向け研修を行うなどにより、うつ病などの精神障害発症の予防・早期発見に努めるとともに発症時の専門的ケアを行います。

退職後の復職時についても専門家のアドバイスを交えた支援を行います。

7. 社会貢献活動

公益信託

エスベック地球環境研究・技術基金

エスベックは創業50周年となる1997年、自らの社会的責任を全うする事業として公益信託「エスベック地球環境研究・技術基金」を設置しました。地球環境保全に関する調査研究や技術開発などに対し資金援助を実施しています。これまで38団体に対し総額2,000万円以上の資金援助を実施しています。



授与式

災害義援金の寄付

スマトラ沖地震・津波被害に対する支援

エスベックは、2004年12月にインドネシア・スマトラ島沖で発生した地震及び津波被害に対する復興支援として、エスベックグループの役員および従業員、取引先さま等より義援金を募り、日本赤十字社を通じて約370万円の寄付を行いました。

地域清掃活動

1997年、エスベックは世界環境デーである6月5日を含む1週間を「エスベック環境強化週間」と定め、この時期に事業所周辺の通勤路、近隣公園などでの地域清掃活動を実施しています。2004年は18事業所において、606人の従業員が参加しています。





2004年度 エスペックグループ環境強化週間
環境写真コンテスト

優秀賞作品「Water World」

昌立工業株式会社（取引先様）
掃部 博司

環境的側面

環境マネジメントシステム

1. エスペック全社環境基本方針	20
2. 環境マネジメント活動概念	21
3. ISO14001一括取得	21
4. 環境マネジメントの体制・組織・責任	21
5. 事業活動と製品・サービスの影響評価	22
6. 法規制およびその他の要求事項	22
7. 緊急事態への準備	22
8. 環境マネジメントシステム監査	22
9. 教育・啓発	23

環境パフォーマンス

1. 物質フロー	24
2. 目標と実績（2000年～2003年）	26
3. 目標と実績（2004年）	27
4. 資源循環と地球温暖化防止への取り組み	28
5. 製品での取り組み	29
6. 開発設計段階での取り組み	30
7. 営業での取り組み	32
8. サービスでの取り組み	32
9. 物流での取り組み	33
10. オフィスにおける環境保全	33
11. 環境啓発活動	34
12. コミュニケーション	35
13. 外部評価	36

1. エスペック全社環境基本方針

運用開始
96年～

2005年4月、地球温暖化の防止、資源循環の促進、環境への汚染防止の3つを大きなテーマに掲げ、全社環境基本方針を見直しました。



エスペックグループ全社環境基本方針

【環境宣言】

エスペックは、かけがえのないこの地球を決して傷つけない。
単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはならない。
いかに環境に役立つか、という視点こそエスペックたるゆえんである。

【基本理念】

エスペックグループは、環境保護・保全が企業経営の最重要課題のひとつであることを認識します。
環境試験装置、電子デバイス装置などを製造、販売及びメンテナンスしている企業グループであることを踏まえ、
以下の方針に基づき、地球温暖化の防止、資源循環の促進、ならびに環境への汚染防止に努めるとともに、環境
マネジメント活動、製品・サービスの継続的改善を図ります。

【基本方針】

1. 環境に対する社会およびお客様からの要望をフィードバックし、環境に配慮した製品及びサービスを提供します。
2. 省エネルギー、リサイクル、汚染防止の技術を研究開発し、製品のライフサイクルの全ての段階で、環境負荷を低減した製品を開発します。
3. 地球温暖化防止のために、省エネルギーを推進するとともに自然エネルギーの活用を図ります。
4. 排出物を削減するとともにお客様に対してリサイクルシステムを提案し、循環型社会の実現に寄与します。
5. 資材調達における環境負荷の低減を徹底するためにグリーン調達を行います。
6. 事業活動の全ての領域で、有害物質管理を行い、環境の保護・保全に努めます。
7. 環境改善事業、環境計測事業および社会貢献活動を通じて、社会全体の環境保全活動に積極的に貢献し、環境の先駆者として常に業界をリード、牽引します。
8. 社員はもとより家族を含めたエコライフを推進するため、環境教育・啓発活動を展開します。
9. 環境関連法規制ならびにグループが同意したその他の要求事項などの遵守はもとより、必要に応じて自主基準を設定し、環境リスクマネジメントに取り組みます。

これらを実現するために、技術的・経済的に可能な範囲で環境目的・環境目標を設定し活動するとともに、環境マネジメントシステムを定期的に見直します。

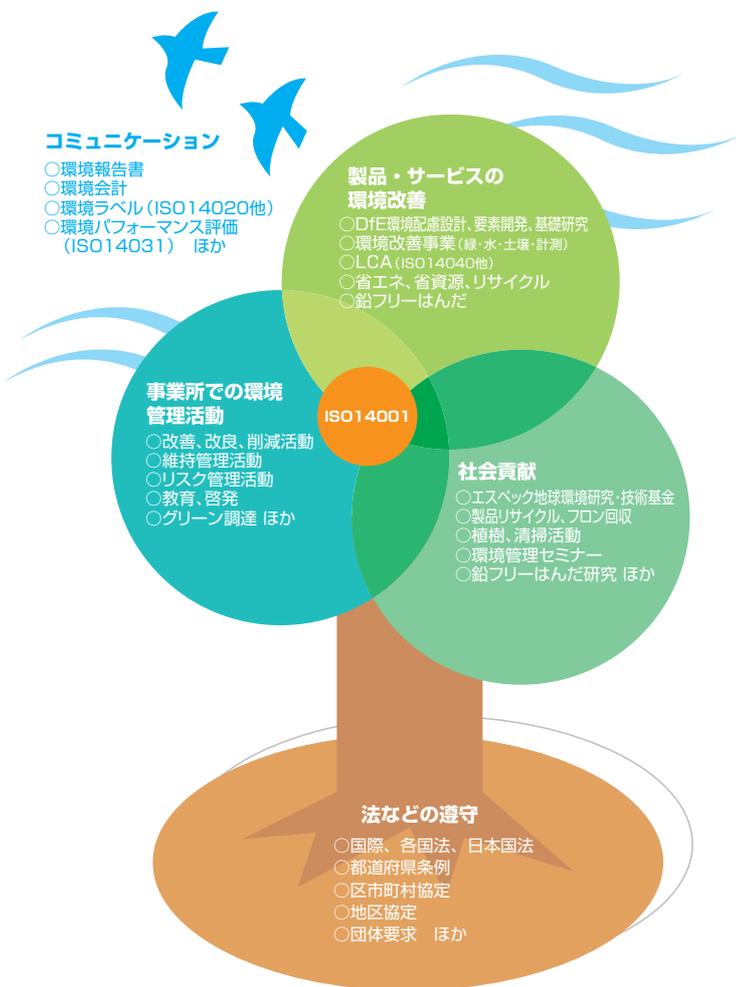
—この環境方針は組織で働く全ての人に周知するとともに、社外に公表します—

2005年4月1日
エスペック株式会社

野路井 達

2. 環境マネジメント活動概念 運用開始 196年～

エスベックは、ISO14001を環境マネジメント活動の核と捉え、なによりも「遵法」、利害関係者との「コミュニケーション」、これに基づく事業活動や製品サービスについての環境改善を行うこととしています。



3. ISO14001一括取得 運用開始 03年～

エスベックは1996年の「環境管理」導入後、サイト単位での環境マネジメント活動とISO14001認証取得を積み重ね、2003年からは国内グループ5社28*1)事業所による全社一括活動を行っています。

*1) 2005年度から30事業所に拡大



■エスベックグループにおけるISO14001認証取得の歴史

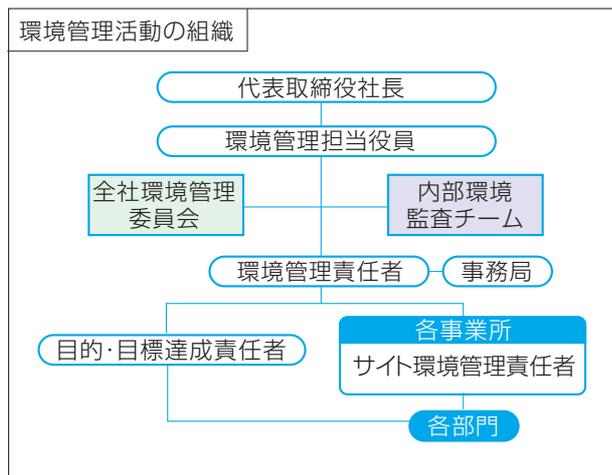
取得年月日	事業所
1996年 12月26日	福知山工場
1997年 3月24日	宇都宮テクノコンプレックス
1997年 7月29日	タイエスベックサービス本社事業所 (現 エスベックエンジニアリング本社事業所)
1998年 7月28日	タイ環境設備大東事業所 (現 エスベックエンジニアリング本社事業所)
2001年 2月28日	東京本部 (現 東京テクニカルセンター)
2002年 1月30日	神戸テクノコンプレックス (現 神戸テクニカルセンター)
2002年 2月20日	エスベック本社
2002年 6月12日	さいたまオフィス
2002年 7月24日	名古屋営業所
2003年 7月23日	エスベックグループ一括取得 【対象範囲】 エスベック株式会社、 エスベックエンジニアリング株式会社、 エスベック関西株式会社、 エスベック環境試験技術センター株式会社 エスベックビジネスクリエイト株式会社 上記の先行取得9事業所を含む 国内28*1)事業所が対象

■単独取得事業所

取得年月日	事業所
2000年 12月 1日	広州愛斯佩克環境儀器有限公司 (海外事業所)
2003年 3月12日	株式会社アポロメック (国内のグループ会社)

4. 環境マネジメントの体制・組織・責任 運用開始 96年～

エスベックでは環境マネジメント活動を推進する母体として、1996年4月に全社環境管理委員会を設置しています。委員長、副委員長には社長、環境管理担当役員が就任。全社共通の目標管理、案件の審議などを行い、環境管理責任者からの運営上の総括的な指示のもと、これを受けた各事業所のサイト環境管理責任者が活動を展開する体制としています。



5. 事業活動と製品・サービスの影響評価

運用開始
'96年～

エスベックでは、事業活動から製品・サービスにいたる環境影響評価を実施しています。ここでは次に挙げる10分類での影響を確認しています。

また、最近ではより広い視点での評価を目指し、環境への負荷のみならず、地域清掃や市民環境会議への参加など環境改善につながる活動も評価することとしています。

- | | |
|--------------|---------------|
| 1.人の健康 | 2.騒音・振動・悪臭・景観 |
| 3.大気汚染 | 4.水質汚濁 |
| 5.地下水汚染・土壌汚染 | 6.廃棄物処理場不足 |
| 7.生態系変化・森林破壊 | 8.地球温暖化 |
| 9.オゾン層破壊 | 10.資源枯渇 |

6. 法規制およびその他の要求事項

運用開始
'96年～

エスベックは環境に関連する法規制・条例・協定等について、全社共通のものは環境管理部が調査、事業所固有のものは各事業所で調査することとしています。最近の世の中の動向を踏まえ、地域による基準の格差にはより高い基準を採用し、お客様からのご希望の多い要求事項についても積極的に対応する体制としています。

7. 緊急事態への準備

運用開始
'96年～

エスベックでは事故などにより地域や地球規模の環境問題を起ささないよう未然防止策を施しています。あらかじめ想定した緊急事態については、対応設備・道具の配備、対応手順の制定、通報ルートの設定などを行い、定期的に訓練とテストを実施しています。これまで緊急事態の発生や製品について環境面のリコールはありませんでした。

想定した緊急事態内容	
エスベック本社事業所	●ポリ塩化ビフェニル (PCB) を含有したコンデンサの漏洩による人への健康障害、土壌汚染
福知山工場	●有機溶剤、廃油の漏洩による土壌汚染
エスベックエンジニアリング本社事業所	●有機溶剤、廃油の漏洩による土壌汚染



緊急事態訓練風景

8. 環境マネジメントシステム監査

運用開始
'96年～

エスベックでは、ISO14001のグループ一括認証取得の対象事業所に対してISO14001に基づく年2回の内部環境監査を実施。環境マネジメントシステムの「意図(しくみ)の有無」「実施状況」「有効性の確認」を重点的に監査します。結果は経営層に報告するとともに、改善点については、ただちに是正を講じています。

また外部審査を、1996年のISO14001の認証取得後、年1回受けています。結果、いずれも観察事項としての指摘がありました。

2004年度内部環境監査/外部審査状況

対象事業所	内部監査指摘件数		外部審査指摘件数 (観察事項)
	実施回数	指摘件数	
エスベックグループ ISO14001一括取得 対象の28事業所	2回	151件	5件

9.教育・啓発

運用開始
96年～

訓練・自覚

エスペックでは、環境マネジメント活動の第一歩は教育から、と考えています。社内職制による教育の実施、自己啓発教育、資格認定制度を運用し、従業員の環境意識の高揚に努めています。対象者は社内従業員はもちろん、派遣社員、場内外注者も対象としています。全従業員に対する環境関連の教育時間は約3,800時間でした。(派遣社員、場内外注者含む)

教育・自覚手段の種類	内 容
職制による環境マネジメント教育	職制を通じて、啓発教育、マネジメントシステム教育、緊急事態に関する教育などを定期的に実施。
自己啓発教育(社内教育制度)	社内講座「環境管理(ISO14001)入門講座」。環境管理部が講師となり休日に開催。自主参加。
自己啓発教育(通信教育制度)	従業員が希望する通信教育講座の申込代行。優秀な成績で修了した者に対して奨励制度の用意。
エスペック環境強化週間	6月5日を含む週を「エスペック環境強化週間」と設定。環境改善提案、環境功労表彰、地域清掃などを実施し、啓発を行う。(18ページをご参照ください)

資格

エスペックでは、環境マネジメント上重要な業務に携わる従業員に対して資格認定制度を導入。また従業員は、環境関連の資格取得に対しても熱心に取り組んでいます。

資格名	内 容
内部環境監査員	社内資格。社外の内部環境監査員セミナーを修了し、社長が認めた者に与えられる資格。現在38名。

家族を含めた啓発・意識付け

エスペックでは事業活動の環境保全活動の範囲にとどまらず、家族を含めた日常生活での環境保全活動、環境意識の高揚が必要と考えています。

そこで家族参加型の啓発・意識付けとして次の取り組みを実施しています。

- 家族向け環境意識の啓発冊子の発行
- 環境カレンダーの配付、集計の実施
- 環境バザーの実施
- 環境フェスティバルの運営
- 外部植樹祭への参加

環境マネジメントセミナー

エスペックでは、環境マネジメント活動に関わる自らの活動事例を、外部セミナーや事例発表会を通じ積極的に公開しています。



事例発表会

これ以外に有償ではありますが、エスペックでは、「マネジメントサービス事業」ということで、環境マネジメントシステム(ISO14001)構築の支援や指導を格安な料金で行っています。2004年度の構築支援件数と審査登録件数の実績は、以下のとおりです。

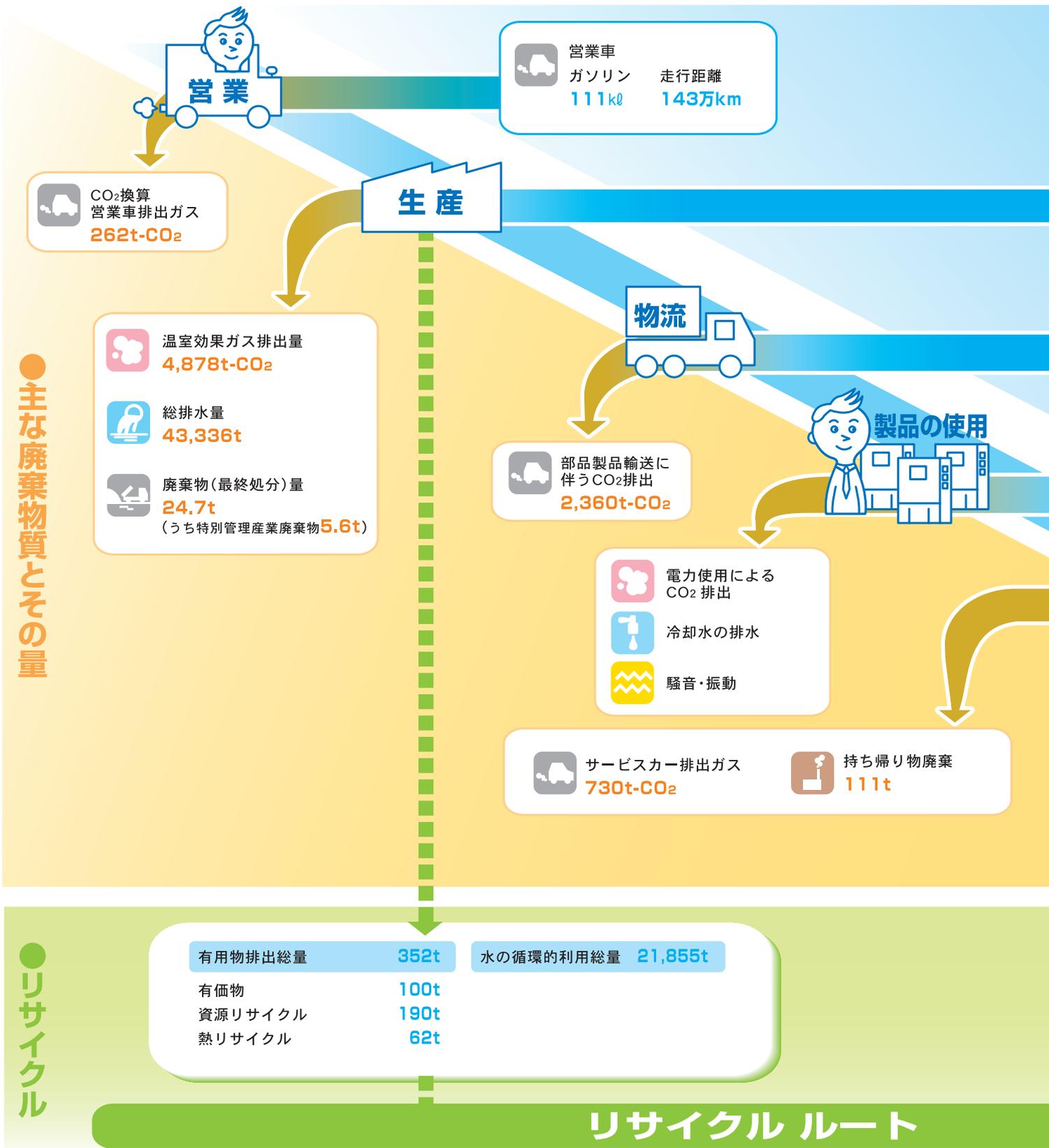
	審査登録件数 (社)数	審査登録 支援件数
ISO14001 登録支援サービス	4	10社

【問合せ先】環境管理部 MS事業担当 前田照隆
TEL 06-6358-4741

1.物質フロー

公開
'99年～

エスベックでは事業活動による投入/排出物の量を「物質フロー」として公開しています。下表をご参照ください。



● 主な廃棄物質とその量

● リサイクル

●主な投入物質とその量

総物質投入量	5,976t	総エネルギー使用量	126,285x10⁶kJ	水使用量	65,191t (上水道+工業用水)
鋼材購入量	5,290t	電気使用量	1,129万kWh-115,723x10⁶kJ		
部品投入量	686t	ガス使用量	263,594m³-1,0421x10⁶kJ		
		石油使用量	3,821ℓ(灯油)-142x10⁶kJ		



部品総輸送量

17万t・km

(総部品総量:2,400t 総走行距離:81,360km)



製品総輸送量

161万t・km

(総製品重量:3,924t 総走行距離:274.8万km)



総輸送量

178万t・km



製品使用時の電力



製品使用時の冷却水



環境配慮製品販売比率 **42%**
※台数比率

保守



サービスカー燃料等

ガソリン **201kℓ** 軽油 **97kℓ** 総走行距離 **261万km**

製品廃棄



エスベックリサイクルシステム
(製品引取・リサイクル・処理システム)



(再構築中)

フロン回収総量

1,244kg

(CFC:287kg/HCFC:667kg/HFC:290kg)

持ち帰り物資源リサイクル

55.5t

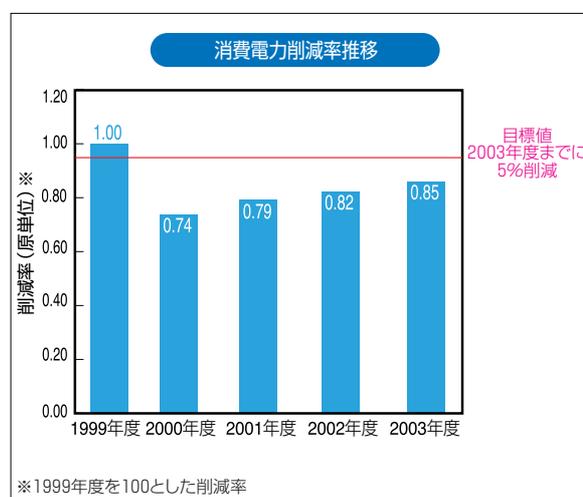
2.目標と実績(2000年～2003年)

エスベックグループにおける第2期環境管理中期計画(対象期間2000年度～2003年度)と実績は以下のとおりです。

	項目	第2期達成目標 (2000～2003年)	2003年度実績	自己評価	参照ページ
事業活動	排出物の削減	2003年までに1999年比10%削減(原単位)	1999年度比16%削減(原単位)	○	28
	製品製造に関わる電力削減	2003年までに1999年比5%削減(原単位)	1999年度比15%削減(原単位)	○	28
	エスベックリサイクルシステムの運営	2000年度運用開始	製品廃棄時に適正処分業者の紹介を実施	○	—
	グリーン調達	2000年度運用開始	継続運用中 エコアクション21登録支援	◎	17
	環境管理活動の範囲拡大—ISO14001	2003年までにエスベックグループとしてISO14001の取得	2003年7月、国内29事業所がISO14001一括取得	○	21
	環境管理活動の範囲拡大	2001年以降、仕入れ先・家庭を含んだ、環境ウィークの開催	社外における植樹への参加、河川水質測定イベントへの当社社員参加	○	35
	社会からの認知	2003年までに環境関連賞を5つ受賞	①地球環境大賞 日本工業新聞社賞を受賞 ②福知山工場がエコ京都21「循環型社会形成部門」認定 ③④環境マネジメントレポート2001が「環境報告書賞」「優良賞」を受賞と「環境レポート大賞」「優秀賞」をダブル受賞 ⑤福知山工場が「京都府環境トップランナー表」を受賞	◎	36
	業界の牽引	2003年までに日本試験機工業会内での環境管理規格(案)制定	2002年に日本試験機工業会において当社の取り組み事例説明会を実施	△	—
	製品	製品の省エネルギー(電力)	1996年機種比、平均30%減	30%以上の省エネを満足した機種を5機種開発	○
		熱処理器に対する30%以上の省エネ技術の開発、製品の展開	2002年より遠赤外線ヒーターシステムの半導体処理装置への搭載	△	30
脱フロン		2003年までにオゾン層破壊、地球温暖化につながらない環境試験機用冷凍回路の研究・開発着手	①断熱発泡液のHFC転換(2003年完了) ②低沸点冷媒回収装置のサービス部門への配備(2002年～) ③代替冷媒についての研究(継続中)	○	
リサイクル		1996年度比、当年度開発着手品の製品重量を従来品比5%削減	組立式恒温恒湿室の空調ユニット部の比較:5%以上を実現	○	

第2期エスベックグループ全社環境目標

◎:大きな成果 ○:計画に沿った成果 △:計画を下まわる、または計画から外れる成果



3.目標と実績(2004年)

	エスベックグループ環境目的 (2003年4月~2008年3月)	活動実績(2004年度)	自己評価	参照ページ
1	環境配慮製品の販売台数を2007年度末までに年間4,500台とします。	環境配慮製品を年間4,200台以上を販売。	◎	32
2	お客さまからの声を2007年度末までに累計で150件社内にフィードバックします。	お客さまからの声を累計で39件社内にフィードバック。	◎	32
3	使用済み製品に対しエスベックリサイクルシステムを積極的に活用します。	エスベックリサイクルシステムのシステムを見直し中。	△	—
4	LCA手法を活用し、環境配慮技術の開発を行います。	2005年に新規設定。	—	—
5	日常業務に伴うグリーン購入比率を向上します。	社内LANを利用しグリーン購入対象品の選択購入を実施。	○	33
6	事業活動に伴い発生する地球温暖化ガス(CO ₂ ガス)の排出量を削減します。*1	2005年に新規設定。	—	—
7	代行店の環境マネジメント支援を2007年度末までに、累計で10件以上実施します。そして、ISO14001を10社以上取得できるようサポートします。	代行店の環境マネジメント支援を7件実施。このうちISO14001を4社取得。	◎	23
8	製品のRoHS対策を、2006年の規制に合わせて対応します。*2	市場情報その他の関連情報を収集。	○	31
9	製造拠点において、ゼロエミッション化を2007年度末までに実現します。	主力の福知山工場においてリサイクル率93.8%を達成。	○	28
10	市民への環境啓発活動として宇都宮テクノコンプレックスのフューチャーラボの入場者を増やします。	宇都宮テクノコンプレックスのフューチャーラボへ年間380人が来場。	○	34
11	社員等の環境教育の場として神戸テクニカルセンターに森と水辺の空間の充実を図ります。	社員等の環境教育の場として神戸テクニカルセンターにビオトープを築造。	◎	47
12	事務作業において環境配慮に取り組みます。	2005年に新規設定。	—	—

*1 対象範囲はエスベック株式会社、エスベックエンジニアリング株式会社、エスベック関西株式会社の3社です。

*2 2005年5月現在、当社製品はRoHS規制対象製品ではありません。

◎:大きな成果 ○:計画に沿った成果 △:計画を下まわる、または計画から外れる成果

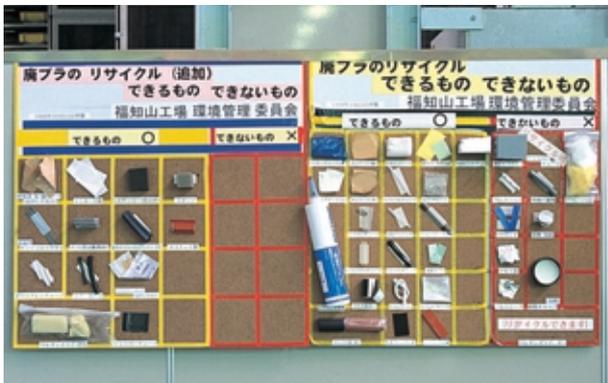
4. 資源循環と地球温暖化防止への取り組み

循環型社会形成の促進

エスペックではこれまで廃棄物の削減(リサイクル化の推進)、排出物の削減(リサイクル対象品も含めた廃棄物総量の削減)を軸に活動を進めてまいりましたが、昨今の資源循環型社会への動きを踏まえ、2005年度から廃棄物の削減から、より大きなテーマ「循環型社会形成の促進」に取り組むこととしました。

主な手段は4つ。

- ① 製造工程からの廃棄物の削減
- ② 物流部門における梱包材のリサイクル化
- ③ お客様先における使用済み製品のリユース
- ④ お客様先における使用済み製品からの使用可能な部品の回収とリユース



現物を貼り付けた分別方法掲示板

地球温暖化防止対策の推進

エスペックでは1996年度より「省電力への取り組み」、「使用済み製品からのフロン回収」、「社有車の省エネ車両への置換え」を通じ地球温暖化の防止に努めてまいりましたが、2005年度よりより大きな「地球温暖化の防止」をテーマに掲げ、取り組み全般を見直すこととしました。

主な手段は5つ

- ① 生産設備の高効率化
- ② 生産工程の高効率化
- ③ 社有車の省エネ化
- ④ フロン回収の実施
- ⑤ 自然エネルギーの活用



ハイブリッドカー



太陽光発電施設

電力削減取組み図

← 設備投資 意識・工夫 →

- 設備(生産、空調、受電)の入れ替え
- 照明設備の入れ替え
- 照明配線(スイッチ)の変更
- エア配管の自動遮断
- 冷却水ポンプのインバータ化

各工場(建物)単位の電力使用量の常時監視、事務所にて一括観測・監視

- 冷却水ポンプの休日停止
- トイレ等照明の自動点滅
- PCディスプレイの液晶化

- 空調設定温度の制限
- 昼休みの照明・コピー機OFF

圧縮空気配管に電磁弁を取り付け、業務終了・非使用回路は自動的に遮断する

24時間稼働している工業用ポンプに、インバーターを取り付け

● 冷却水ポンプの休日停止

● 昼休みの照明・コピー機OFF

各工場(建物)単位の電力使用量の常時監視、事務所にて一括観測・監視

● PCディスプレイの液晶化

事務所照明用スイッチと、消灯チェックシートによるこまめな節電の周知徹底

● 等々

5. 製品での取り組み

消費電力の削減

エスペックでは、積極的にエコプロダクツに取り組んでいます。これまでは製品の消費電力削減を重要なテーマとして掲げ、取り組んでまいりました。

1996年度以降、従来比30%以上の省エネ型製品を9機種世に送り出してきました。

今後は、3つの大きなテーマ

「循環型社会の形成促進」

「地球温暖化の防止」

「化学物質の適正使用」

を軸に活動を進めてまいります。

小型環境試験器シリーズ



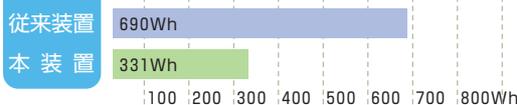
従来比(機種平均)
32%
省エネ

SH-241の場合

●+85°C/85%rhの条件



●+20°Cの条件



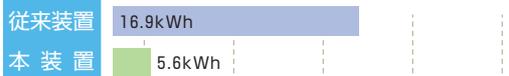
恒温恒湿室ビルドインチャンバー



従来比(機種平均)
42%
省エネ

6型ACU30の場合

●+85°C/85%rhの条件



●-10°Cの条件



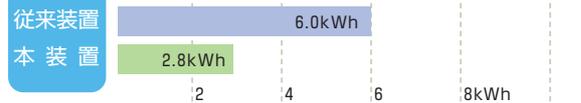
液槽冷熱衝撃装置シリーズ



従来比(機種平均)
50%
省エネ

TSB-51の場合

●+155°C / -70°C
5分 / 5分 の条件



●+155°C / -70°C
5分 / 5分 の条件



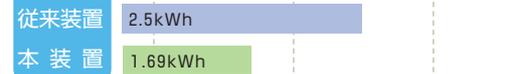
恒温恒湿器プラチナスKシリーズ



従来比(機種平均)
32%
省エネ

PL-2Kの場合

●+85°C/85%rhの条件



●+20°Cの条件



冷熱衝撃装置 TSAシリーズ



従来比(機種平均)
31%
省エネ

TSA-101Sの場合

●+120°C / 常温 / -40°C
60分 / 5分 / 60分 の条件

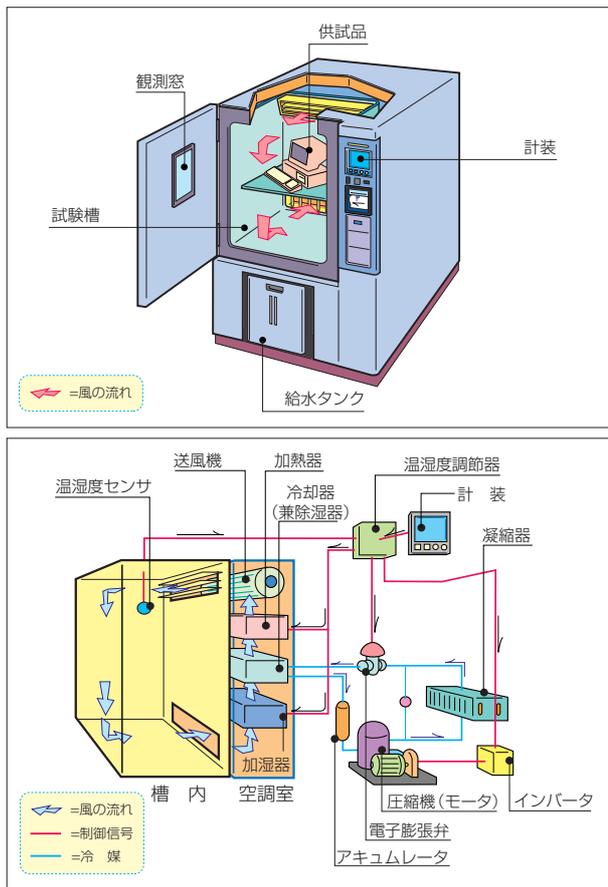


※上記の各数値は単位時間あたりの比較で、あくまでも参考値です。

6. 開発設計段階での取り組み

製品構造概略

エスペックの主力製品「環境試験装置」は、次のような構造、構成になっており、大きさは机の上に乗るサイズから旅館の大広間ほどもある大型製品まで幅広く取り揃えております。お客様の多種多様なニーズにお答えし、短期間でお納めしています。



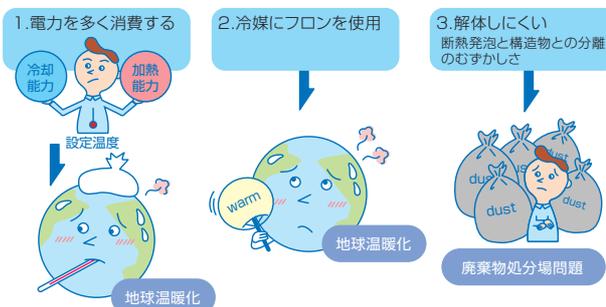
エスペック製品の環境問題

環境試験装置は、金属の内外槽、ウレタン断熱材、電気・機械部品などで構成されています。気象環境を再現するのに、HFC フロンを用いた冷凍回路と電気ヒータによるバランスで温湿度を制御しています。

この環境試験装置が地球に与える影響は、

- フロンが大気放出された地球温暖化
- 多大な消費電力による地球温暖化
- 製品廃棄時の廃棄物処分場圧迫などが挙げられ、改善点を多く抱えています。

製品の環境上の問題点



環境配慮開発設計ガイドライン

運用開始
99年～

エスペックでは、製品に対する環境への配慮を一層推進するため、1999年春、設計標準書「環境配慮開発設計ガイドライン」を制定、同時に運用を開始。当ガイドラインは、エスペックグループの開発設計部門が製品開発・設計時に適用する設計標準書で

- 製品ごとの環境目標値
- 資源投入～加工～使用～廃棄の全ライフサイクルの環境アセスメントの実施指示
- 「環境デザインレビュー」の実施指示
- 経営層による環境面評価、量産、出荷可否判断
- 使用推奨素材の指定、使用禁止物質の指定などで構成されています。



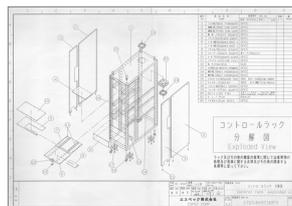
リサイクルへの取り組み

運用開始
98年～

金属のできた外装と内槽との間にウレタン断熱材を施した当社の製品。現状、解体が困難であり、廃棄物処分場に負担をかけています。エスペックグループでは開発段階から製品のリサイクルを考え、

- 解体しやすい構造
- 一般工具で解体できる構造
- 解体手順書の発行、公開
- 樹脂部分の材質マーキング

などを新規開発品・モデルチェンジ品に適用。2001年度は使用禁止物質/使用推奨物質の見直しを5品目行うとともに、解体手順書の製品貼り付けを開始しました。



解体手順書



素材マーキング例

梱包材への取り組み

運用開始
97年～

エスペックは製品をカバーする樹脂製袋は、厚みを極限まで薄くしました。梱包材料についても、木枠梱包を見直し、重量物用ダンボール梱包の開発(特許2件公開中)

- 輸送業者との連携による裸(梱包なし)輸送を実施しています。

これらの取り組みにより、森林資源の保護、緑の保護、有害物質の排除に努めています。

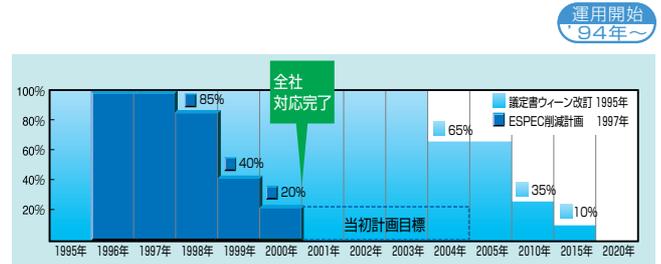


段ボール梱包例

6. 開発設計段階での取り組み

冷媒フロンへの取り組み

エスペックでは、1995年のCFCフロン全廃規制に先駆け、1994年にCFCフロンを製品・工場から排除。次にオゾン層破壊係数「0」のHFCフロンへの転換を進めました。性能、信頼性等に関する問題を解決しながら、2000年秋、当社製品の冷凍回路のHFC転換をすでに完了させています。



化学物質の適性使用

危険有害化学物質への取組み

エスペックでは、製品設計にあたり使用禁止物質を指定し、有害物質の使用を削減してきました。なかでも、鉛については1998年より自社製造のプリント基板において、そのベースとなる板の部分で鉛フリー化を進めて参りました。昨今話題となっているRoHS指令における6品目の有害物質については、2005年6月現在、弊社製品はRoHS規制の対象製品ではありませんが、弊社製品における使用の有無、代替部品の有無について調査を進めております。今後は有害物質の不利用の流れを踏まえ、可能な限りより安全性の高い部品の採用を進める方針です。

PRTR

エスペックでは、約300種類の危険有害化学物質を使用しています。(当社基準に基づく選定)。これらに対し、MSDSの配備、使用・保管に関する手順書の整備、より安全性の高い物質への置換えの促進など適正な管理を実施しています。化学物質の移動量管理については、自主管理基準:1kg以上を集計単位として管理しています。また、エスペックはお客様先での作業に伴う化学物質の使用もありますので、これも集計しています。2004年度、法的報告義務である1t以上の取扱量になる事業所はありませんでした。

2004年度 全社PRTR実績

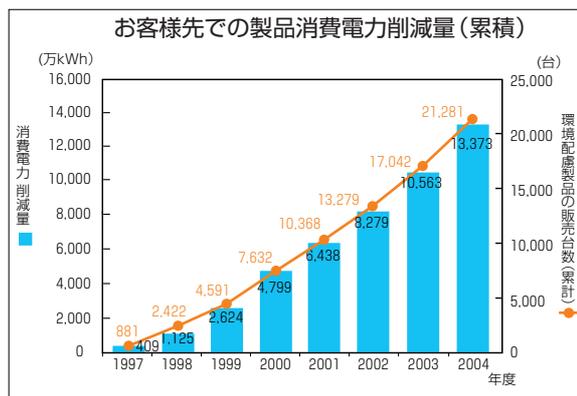
事業所内				事業所外	
(単位:t)				(単位:t)	
第1種指定化学物質の名称	HFC-225	トルエン	ヒドラジン	HFC	CFC
第1種指定化学物質の番号	144	227	253		
年間取扱量	0.36	0.54	0.33	3.09	0.31
製品への含有分(自主測定項目)	-	-	-	2.25	0.01
リサイクル分(売却分)(自主測定項目)	0.06	-	-	-	-
排出量	イ) 大気への年間排出量	0.30	0.54	0.17	0.01
	ロ) 公共用水域への年間排出量	-	-	-	-
	ハ) 当該事業所における土壌への排出 ニ) 以外	-	-	-	-
	二) 当該事業所における埋立処分	-	-	-	-
移動量	イ) 下水道への移動	-	-	0.03	-
	ロ) 当該事業所の外への移動 イ) 以外	-	-	0.67	0.29

7. 営業での取り組み

製品を生産・販売するエスペックグループは、生産事業拠点での環境マネジメント活動にとどまらず「営業」での環境マネジメント活動を行っています。

- 環境に関するお客様の声を積極的に聞き、製品・サービスに活かす。(インプット)
- 環境に良い製品・サービスをお客様に提供する。(アウトプット)

これが、営業活動での環境マネジメント活動である、と考えています。エスペックグループの環境に配慮した製品の拡販については数値目標を設定し活動を実施中です。



8. サービスでの取り組み

社会でのフロン回収

エスペックグループのサービス会社であるエスペックエンジニアリング株式会社は、業界に先駆け、1995年、修理・廃棄時のフロン回収を開始しました。回収した冷媒フロンは、冷媒メーカーに返送、冷媒メーカーは高温プラズマ破壊等の処理を行い、無害化します。ご希望のお客様には破壊証明書を発行しています。

その回収量はお客様のご理解も得られ、11,541kgにも及びます。(2005年3月現在累積値)

超低温領域である-70℃や-100℃を再現するには、低沸点冷媒フロンが使用されています。この低沸点冷媒フロンについては、2002年3月「低沸点冷媒回収装置」を独自に開発。2002年度より各サービス拠点に配置し、低沸点冷媒の回収を行っています。



フロン回収風景



低沸点冷媒回収装置
(プロトタイプ)

お客様からの不要物回収

エスペックエンジニアリング株式会社では、お客様先で行った保守・修理業務時に発生する不要物を全て持ち帰り、自社内で分別・適正処理するシステムを運用しています。これにより、お客様先で分別・リサイクルするしくみがなかったり、少量のため廃棄せざるを得なかった不要物についても、リサイクルの途を開きました。その回収量は、454.3tになります。

(2005年3月現在累積値)



9. 物流での取り組み

徹底した通函化

エスペックでは、仕入先様からの資材・部品納入に伴う梱包材・緩衝材に関し通函化することを契約条件にしています。

またエスペックから仕入先様に通函を提供し、納品してもらうシステムも構築しています。また緩衝材などは、いったん社内でも保管し、社内物流に再利用したり、仕入先様に無償で持ち帰ってもらうことで、事業所から出る廃プラスチック類の量を削減しています。



製品・部品の集中配送システムによるトラック便削減

エスペックは、主に京阪神に主力工場を持ち、資材調達の多くを京阪神の仕入先様にお願いしています。そこで、エスペックでは、大阪にエスペックへの集中配送場所を設置。仕入先様はそこに納品し、エスペックへの納品は、トラック1台により、各事業所に一括して輸送されます。これにより、トラック便を大幅に削減することができ、CO₂の削減、NOx、SOxの削減、交通公害の削減に寄与しています。
(1999年度4,500便/年→2001年度1,221便/年→2002年度以降1,200便/年)

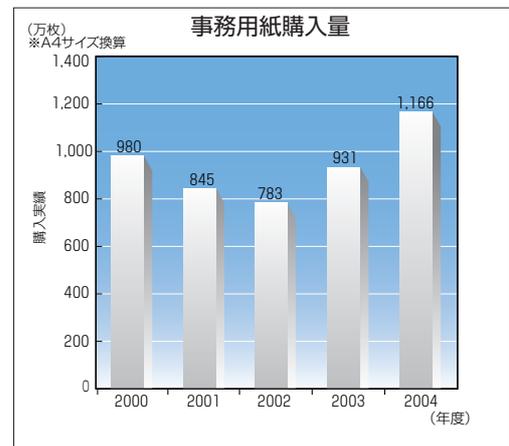
10. オフィスにおける環境保全

事務用紙削減

運用開始
96年～

事務・設計に必要な各種事務用紙。大切な森林資源を費やしているとともに、生態系の変化などをもたらしています。残念ながら今期は大幅に購入量が増加してしまいましたが、今後ともエスペックでは、事務用紙の削減に努めています。

- 指定用紙の古紙配合率の見直し
- 使用済みのコピー用紙の裏面再利用
- 縮小・両面コピーによる配布枚数の削減
- 配布先の見直し、回覧化、電子メール化
- 電子媒体による保管・閲覧など



グリーン購入

エスペックでは、事務用品、OA機器、衛生用品などについてもグリーン購入を推進しています。現在の選定基準は、環境保全に関するエコマークのあるものおよびグリーン購入ガイドライン(GPN)に沿ったものとしています。

1.1.環境啓発活動

新エネルギー・太陽光発電の研究

運用開始
95年～

宇都宮テクノコンプレックスには1995年、NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）から太陽光発電フィールドテスト事業の共同研究者として事業の委託をうけ太陽光発電施設を設置しました。5年間の共同研究は完了しましたが、太陽光発電の長期信頼性を研究するため引き続き、基礎データの採取を実施しています。

また、この施設は工場への来客者・地域住民・近隣小中学校の見学などに、広く公開しています。環境の大切さを知っていただくひとつの機会として役立っています。

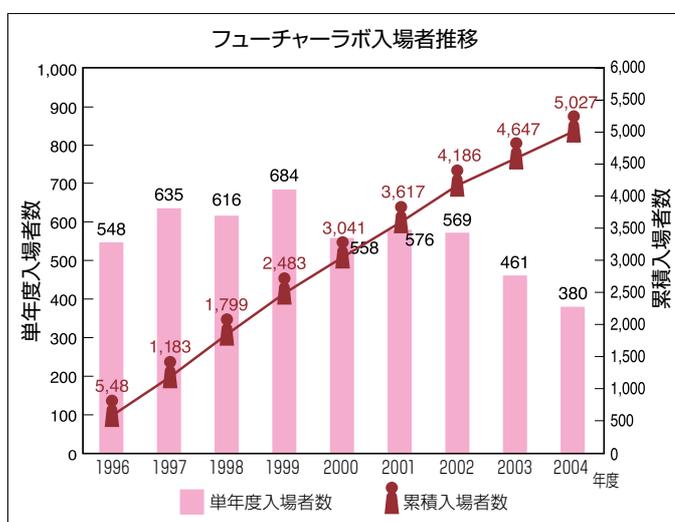


太陽光発電施設とフューチャーラボ(展示館)

フューチャーラボ(展示館)の運営

運用開始
96年～

太陽光発電施設の隣に、「フューチャーラボ」(展示館)を設置。太陽光発電や燃料電池の模型、パネル展示、環境関連文献などに実際に触って体験していただくことができます。2001年からはこの施設を活用した環境フェスティバルを開催。ソーラーカーの試乗会、牛乳パックによる紙すき大会など、広く一般の方に環境啓発活動を実施しています。

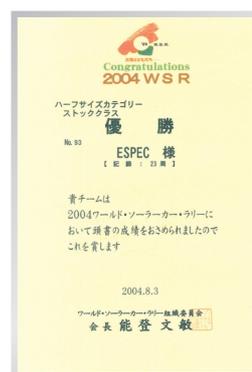


ソーラーカー・ラリーへの参戦

運用開始
96年～

クリーンエネルギーの太陽光発電。エスペックグループではソーラーカー・ラリーを通じて、太陽光発電に関する基礎研究と社会への啓発を行います。

エスペックグループは、1997年以来、ワールド・ソーラーカー・ラリーへの参戦を援助。1999年夏にはエスペックが技術・資金援助を行う、高校が、フレッシュ部門優勝および技術賞を受賞。おおきな喜びとなりました。2000年度からは、エスペックグループとして参戦。2004年度は念願のクラス優勝をすることができました。



11. 環境啓発活動

地域の環境フェスティバルへの参加

運用開始
97年～

エスペックは地域の環境フェスティバルなどにも積極的に参加しています。2004年は11月の大阪府等が主催する環境フェスティバルや12月の京都府が主催する環境フェスティバルへ出展しています。



大阪での出展

市民啓発イベントへの協力

運用開始
03年～

福知山工場の近くにある天津公民館での、川の水质・生き物調査。子供たちの夏休み自由研究として父兄を含め約50人の参加がありました。エスペックからは指導員を派遣し水质測定用のキットを無償提供しました。簡易キットによるCOD測定やタイコウチやスジエビなどのたくさんの水生昆虫が見つかるなど父兄を含めた子供たちの環境への関心を深めるために一役買っています。



生き物調査の様子

地域社会における環境会議への参加

運用開始
02年～

エスペックの主力工場の一つは福知山市にあります。ここ福知山市では平成16年3月に一般市民・事業者・行政が一体となって福知山市環境基本計画が策定されました。エスペックは、その策定主体であったふくちやま市民環境会議にこれまで参画をしてきましたが、平成17年6月25日、この福知山市環境基本計画を実施・進捗管理していくための福知山環境会議（通称：福知山エコパートナーシップ）が発足します。エスペックは、この福知山環境会議にも参画し、継続的な協力をしてまいります。

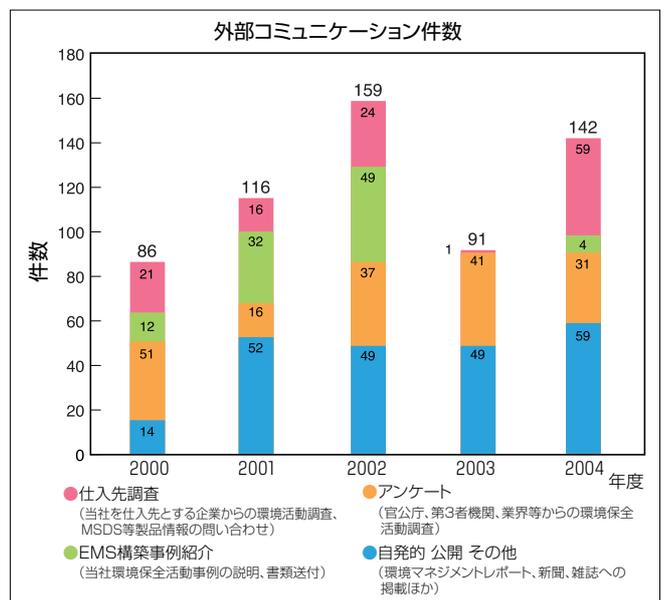


12. コミュニケーション

外部コミュニケーション件数

運用開始
96年～

エスペックグループとお客様、周辺住民の方々をはじめとする利害関係者とのコミュニケーション件数は右図のとおりです。2004年度、苦情件数は0件でした。



13.外部評価

第13回地球環境大賞 日本工業新聞社賞受賞

受賞
04年4月

エスベック株式会社は、フジサンケイグループ・日本工業新聞社主催「第13回地球環境大賞 日本工業新聞社賞」を受賞しました。

地球環境大賞は世界自然保護基金ジャパン(名誉総裁:秋篠宮殿下)の特別協力、経済産業省、環境省、文部科学省の後援、日本経団連の協力を得て、フジサンケイグループ・日本工業新聞社により毎年実施されています。



受賞式 後段左より5番目 弊社社長 野路井 達
フジサンケイビジネスアイ提供

日本環境経営大賞「環境経営優秀賞」を受賞

受賞
05年6月

エスベック株式会社は第3回日本環境経営大賞 環境経営優秀賞を受賞しました。

日本環境経営大賞とは、日本環境経営大賞表彰委員会および三重県が主催、環境省、経済産業省、財団法人社会経済生産性本部などが後援している表彰制度です。

この表彰制度では、環境経営のさらなる普及・発展を図り、「持続可能な社会」への転換を促進していくことを目的として、事業規模の大小や業種・業態にかかわらず、全国の企業(事業所)、NPO、学校などのあらゆる組織体の環境経営の取組の中から、優れた成果をあげているものを顕彰しています。



前列の左から4番目
弊社社長 野路井 達

環境報告書賞 優良賞受賞

受賞
02年5月

2001年6月に発行いたしました、「エスベック環境マネジメントレポート2001」が、東洋経済新報社主催 第5回環境報告書賞 優良賞を2002年5月に受賞しました。

環境経営度調査

日本経済新聞社主催の「2004年度環境経営度調査」では、エスベックは94位に評価されました。

- 2001年度 — 14位
- 2002年度 — 32位
- 2003年度 — 37位

アンケートご意見

前号である、「エスベック環境マネジメントレポート2004」は約9,000部発行しました。この環境マネジメントレポート2004の巻末にはアンケート用紙を添付。2005年度5月までに27件のご返送をいただきました。ありがとうございました。その内容は、お褒めの言葉以外にも、ご意見、ご希望も頂戴することができました。これらのご意見・ご要望を真摯に受けとめ、今後の活動に生かしていきたいと考えています。

エコ京都21

認定
04年12月

京都府では、京都府内の環境配慮活動について率先して取り組んでいる事業所などを「エコ京都21(京都・環境を守り育てる事業所)」として認定・登録する制度を創設。エスベック・福知山工場は、2004年12月、「循環型社会形成部門」に認定されました。





2004年度 エスベックグループ環境強化週間
環境写真コンテスト

優秀賞作品「雑草」

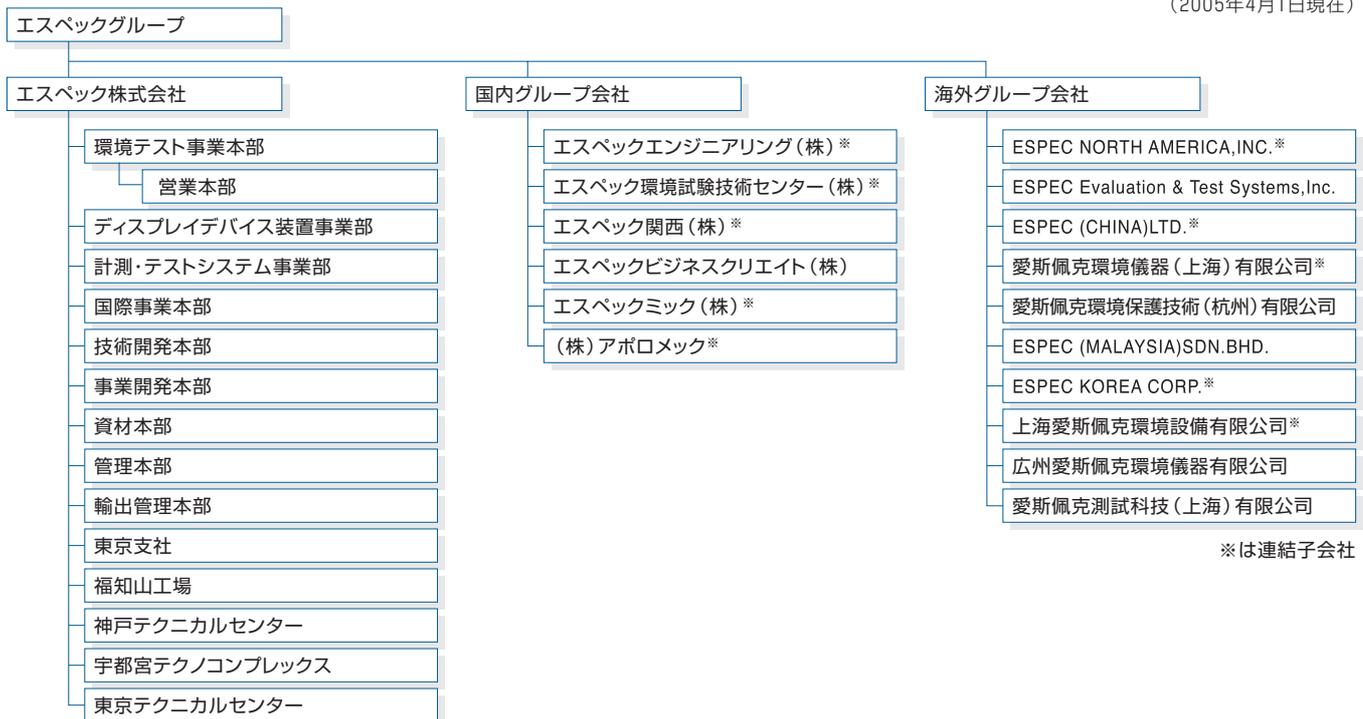
エスベック株式会社
四方 浩昭

経済的側面

1. エスベックグループ体制図	38
2. 営業概況・財務ハイライト	38
3. 業績推移	39
4. セグメント別売上高構成比	39
5. 事業所一覧	40
6. サイト別データ	41
7. 環境会計	42
8. 算出根拠	43
9. 年表	44
10. CSRレポートの対象範囲	46

1. エスベックグループ体制図

(2005年4月1日現在)



2. 営業概況・財務ハイライト

営業利益・当期純利益も大幅に伸長

ESPECは、3ヵ年経営革新計画「ESPEC130プラン」の2年目である2004年度を「開発・実行の年」と位置づけ、「改革・開発」に重点をおいて取り組んでまいりました。堅調な自動車やデジタル家電、LCDといった成長市場に焦点をあてた営業活動を一層強化する一方、収益体質の改善に向けた取り組みや次世代の新技术・新製品の開発を推進しました。

また、海外での生産・販売体制の強化などグループ会社の拡大・充実に積極的に取り組みました。

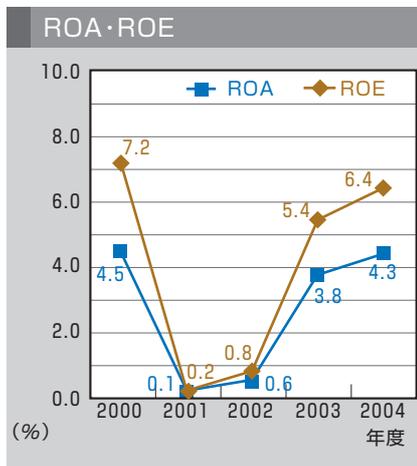
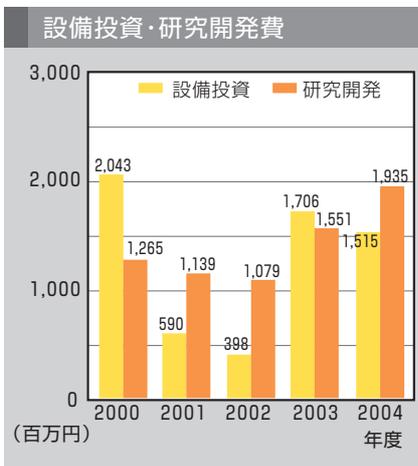
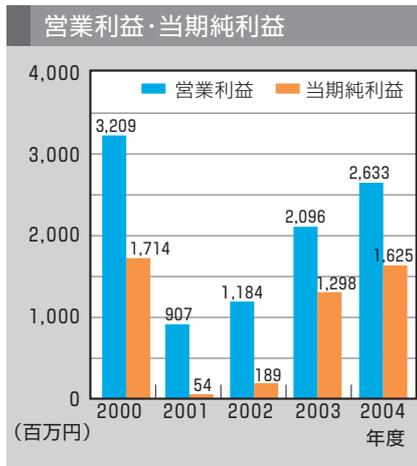
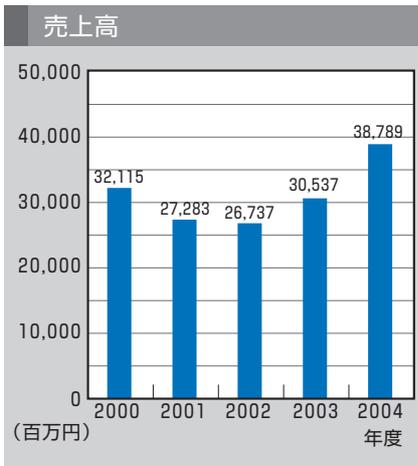
この結果、2004年度の連結業績は環境試験器とディスプレイデバイス装置が好調に推移し、過去最高となる売上高を達成することができました。また、利益面では営業利益、当期純利益ともに大幅に伸長させることができました。

※ESPECホームページ(<http://www.espec.co.jp/>)で決算に関する詳細がご覧になれます。

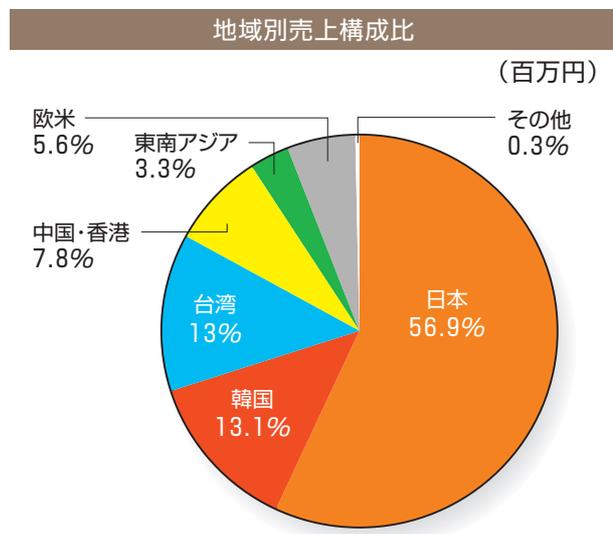
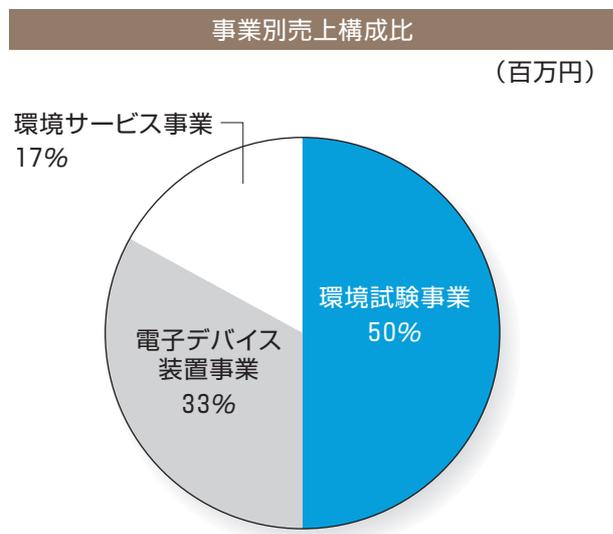
営業概況(2004年4月～2005年3月)

	連結	単独
売上高	38,789百万円	29,634百万円
営業利益	2,633百万円	1,504百万円
経常利益	2,873百万円	1,955百万円
当期純利益	1,625百万円	1,120百万円
総資産	40,266百万円	34,154百万円
株主資本	26,569百万円	23,951百万円
1株当たり株主資本	1,141.06円	1,028.85円
1株当たり当期純利益	70.32円	48.39円
総資産利益率(ROA)	4.3%	1.5%
株主資本利益率(ROE)	6.4%	4.8%
設備投資費	1,515百万円	1,255百万円
減価償却費	688百万円	531百万円
研究開発費	1,935百万円	1,933百万円
従業員数	1187名	564名

3.業績推移



4.セグメント別売上高構成比



5. 事業所一覧

事業所

本社

530-8550 大阪府大阪市北区天神橋 3-5-6
Tel : 06-6358-4741 Fax : 06-6358-5500

東京支社

108-6012 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟12階
Tel : 03-5783-8731 Fax : 03-5783-8737

東京テクニカルセンター

136-0074 東京都江東区東砂 8-5-1
Tel : 03-5633-7291 Fax : 03-5633-7303

神戸テクニカルセンター

651-1514 兵庫県神戸市北区鹿の子台南町 5-2-5
Tel : 078-951-0960 Fax : 078-951-0967

仙台営業所

981-3135 宮城県仙台市泉区八乙女中央 2-2-22
Tel : 022-218-1891 Fax : 022-218-1894

つくば営業所

305-0035 茨城県つくば市松代 1-11-10
Tel : 029-854-7805 Fax : 029-854-7785

さいたま営業所

330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町 4-782-1
Tel : 048-643-1918 Fax : 048-645-1597

東京営業所

108-6012 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟12階
Tel : 03-5783-8732 Fax : 03-5783-8738

西東京営業所

186-0011 東京都国立市谷保 6049
Tel : 042-501-2571 Fax : 042-501-2573

松本営業所

390-0851 長野県松本市島内 4082-7
Tel : 0263-48-0401 Fax : 0263-48-0410

静岡営業所

422-8036 静岡県静岡市駿河区敷地 2-26-10
Tel : 054-237-8000 Fax : 054-238-3441

金沢営業所

920-8203 石川県金沢市鞍月3丁目115
Tel : 076-268-1891 Fax : 076-268-1893

名古屋事業所

465-0092 愛知県名古屋市中東区社台 3-81-2
Tel : 052-777-2551 Fax : 052-777-2575

大阪営業所

530-8550 大阪府大阪市北区天神橋3-5-6
Tel : 06-6358-4746 Fax : 06-6358-5575

広島営業所

731-0103 広島県広島市安佐南区緑井 1-12-25
Tel : 082-830-5211 Fax : 082-876-5050

福岡営業所

812-0006 福岡県福岡市博多区上牟田 1-28-16 コスモブレインビルE室
Tel : 092-471-0932 Fax : 092-474-3500

宇都宮テクノコンプレックス

321-3231 栃木県宇都宮市清原工業団地 23-1
Tel : 028-667-8730 Fax : 028-667-5803

福知山工場

620-0853 京都府福知山市長田野町 1-7
Tel : 0773-27-3131 Fax : 0773-27-1132

Europe Branch

Wiltruden Strasse 5, D-80805Munich, Germany
Tel : (49)89-30765661
Fax : (49)89-30767573

エスペックグループ<国内>

エスペックエンジニアリング株式会社

572-0072 大阪府豊屋川市太閤東町 15-8
Tel : 072-834-1191 Fax : 072-834-7755

エスペック環境試験技術センター株式会社

530-8550 大阪府大阪市北区天神橋 3-5-6
Tel : 06-6135-3626 Fax : 06-6135-3627

エスペック関西株式会社

615-0046 京都府京都市右京区西院西清満崎 8
Tel : 075-315-1232 Fax : 075-311-6305

エスペックビジネスクリエイト株式会社

530-8550 大阪府大阪市北区天神橋 3-5-6
Tel : 06-6358-3229 Fax : 06-6358-9450

エスペックミック株式会社

480-0138 愛知県丹羽郡大口町大御堂 1-233-1
Tel : 0587-95-6369 Fax : 0587-95-4833

株式会社アポロメック

658-0053 兵庫県神戸市東灘区住吉宮町 5-10-18
Tel : 078-811-3211 Fax : 078-841-8329

エスペックグループ<海外>

ESPEC NORTH AMERICA, INC.

4141 Central Parkway, Hudsonville, MI49426 U.S.A.
Tel : 1-616-896-6100 Fax : 1-616-896-6150

ESPEC EVALUATION & TEST SYSTEMS, INC.

1933 O'toole Ave., Suite A-107 Sun Jose, CA95131, U.S.A.
Tel : 1-408-433-2295 Fax : 1-408-433-2296

SHANGHAI ESPEC ENVIRONMENTAL EQUIPMENT CORP.

166 Ha-mi Road, Shanghai 200335, China
Tel : 86-21-52186477 Fax : 86-21-62394953

GUANGZHOU ESPEC ENVIRONMENTAL EQUIPMENT CO., Ltd.

Yongfa Avenue 6, Huadu-City, Guangdong-province 510808, China
Tel : 86-20-86881537 Fax : 86-20-86881530

ESPEC ENVIRONMENTAL EQUIPMENT (SHANGHAI) CO., LTD.

F1r1, No.489 Pudian Road, You You Yanqiao Building, Pudong New Area, Shanghai, 200122, China
Tel : 86-21-58303322 Fax : 86-21-58661781

ESPEC TEST TECHNOLOGY (SHANGHAI) CO., LTD.

Room 106, Building 8, No.3000 Longdong Avenue, Pudong New Area, Shanghai 201203, China
Tel : 86-21-6879-8008 Fax : 86-21-6879-8088

ESPEC ENVIRONMENTAL PROTECTION (HANGZHOU) CO., LTD.

117 Xue Yuan Road Xi Hu Qu Hangzhou Zhejiang 310012, China
Tel : 86-571-88914026 Fax : 86-571-88919246

ESPEC (MALAYSIA) SDN. BHD.

No.10-1, Jalan Dagang SB 4/2, Taman Sungai Besi Indah, Off Jalan Sungai Besi, 43300 Seri Kembangan, Selangor Darul Ehsan Malaysia
Tel : 60-3-89451377 Fax : 60-3-89451287

ESPEC KOREA CORP.

36-20, Gwandai-Ri, Doonpo-Myun, Asan-City, Choongnam 336871, Korea
Tel : 82-41-532-1981 Fax : 82-41-532-1983

ESPEC (CHINA) LIMITED.

6.サイト別データ

	エスベック 本 社	福知山工場	宇都宮テクノ コンプレックス	神戸 テクニカルセンター	エスベック エンジニアリング 本社	ISO14001一括取得 対象事業所合計 (28サイト)
地域区分	商業地域	工業専用地域	工業地域	準工業地域	準工業地域	—
敷地面積	1,668m ²	54,822m ²	30,320m ²	31,911m ²	490m ²	—
操業形態	日勤 (8:30-17:10)	日勤 (8:30-17:10)	日勤 (8:30-17:10)	日勤 (8:30-17:10)	日勤 (8:30-17:10)	—
稼動年度	1947年	1974年	1991年	2001年	1983年	—
従業員数	273名	387名	81名	93名	72名	1,158名
主な業務・生産物	環境試験器・環境 試験装置・電子 デバイス装置 の販売、開発・ 設計 ならびに資材・ 部品の購買業務	環境試験装置・ 電子デバイス 装置	電子デバイス装 置、プリント基板	技術開発拠点、 製品・部品物流 拠点および受託 試験	環境試験装置、電 子デバイス装置 等のメンテナン ス(点検・保守)	—
排出物の発生量	23.8t	233.1t	23.1t	27.6t	18t	421t ^{※1}
産業廃棄物量	0.8t	68.3t	22.4t	12.1t	5.9t	180.6t
事業系一般廃棄物量	23t	63.9t	0.7t	4.0t	6.3t	119t
電力	89万kWh	408万kWh	290万kWh	262万kWh	23万kWh	1,129万kWh
事務用紙購入量	675万枚	245万枚	21万枚	70万枚	23万枚	1,166万枚
ガス使用量	40,337m ³	143,524m ³	—	76,198m ³	27m ³	263,594m ³
社有車保有台数	11台	5台	10台	4台	16台	197台
うち、ハイブリッドカー	—	—	—	—	—	3台
燃料使用量(ガソリン)	18kℓ	8kℓ	12.7kℓ	4.7kℓ	14.9kℓ	312kℓ
燃料使用量(軽油)	—	0.4kℓ	5.5kℓ	—	—	97kℓ
走行距離	252,045km	80,225km	163,707km	52,302km	142,203km	4,053,534km
遵法への対応(騒音など)	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
地域からのクレームなど	クレームなし	クレームなし	クレームなし	クレームなし	クレームなし	クレームなし

※1 お客様先での作業時発生分を含む

7.環境会計

エスベックの2004年度、環境会計の集計結果は以下の通りです。

集計範囲:(エスベック株式会社、エスベックエンジニアリング株式会社)
 対象期間:平成16年4月1日～平成17年3月31日
 単 位:(千)円

環境保全コスト						
分 類	主な取組の内容	2004年度投資額	2004年度費用額	2003年度投資額	2003年度費用額	
(1) 生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)		73,583	49,014	37,398	59,488	
内 訳	①公害防止コスト	1,144	4,955	1,551	7,686	
	②地球環境保全コスト	省エネ型空調設備の導入	72,440	30,621	35,398	26,922
	③資源循環コスト	廃棄物処分費用	—	13,439	450	24,881
生産・サービス活動に伴って上流または下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト(上・下流コスト)		—	—	—	—	
(3) 管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)	ISO14001運用経費	—	57,363	—	73,311	
(4) 研究開発活動における環境保全コスト	環境配慮製品の開発	—	631,036	—	300,582	
(5) 社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)	神戸テクニカルセンターにおける森づくり・水辺づくり	45,306	34,619	5,146	35,317	
(6) 環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト)		—	—	—	—	
合計		118,890	772,033	42,544	468,698	

単 位:(千)円

項 目	内 容 等	2004年度実績	2003年度実績
当該期間の投資額の総額		505,352	486,998
当該期間の研究開発費の総額		1,933,106	1,549,960

単 位:(千)円

環境保全対策に伴う経済効果		
効果の内容		金 額
収益	リサイクルにより得られた収入額	2,818
費用節減	省エネルギーによる費用削減	4,050

環境保全効果							
効果の内容	環境保全効果を表す指標			効果の内容	環境保全効果を表す指標		
	指標の分類	指標の値			指標の分類	指標の値	
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	廃棄物の排出	2004年度実績	2003年度実績	事業活動に投入する資源に関する効果	電力の使用	2004年度実績	2003年度実績
	発生総量(トン)	24.7	24.0		発生総量(万kWh)	1,129	1,156
	削減量(対前年比)(トン)	(0.70)	—		削減量(対前年比)(万kWh)	27.00	—
	原単位(kg/億円)	65.2	78.6		原単位(万kWh/億円)	2.9	3.8
	原単位での削減率(%) (対前年比)	17	—		原単位での削減率(%) (対前年比)	24	—

注1.()付きの値は増加分

8.算出根拠

値の名称	ページ	計算式・条件など
総物質投入量、鋼材投入量、部品投入量	24・25	購買部門の当該購入記録(数量)に対し単位重量を乗じ、総和を求めたもの。 梱包材、付属品などは含まず。
電気使用量	24・25	・電力会社への支払い伝票より算出。 ・1(kWh)=10,250(kJ)で計算
ガス使用量	24・25	・ガス会社への支払い伝票より算出。 ・原油換算:10,000(m ³)=10.2(kℓ) ・発熱量(原油換算):1(kℓ)=38,759,690(kJ)
石油使用量	24・25	・危険有害化学物質取扱記録および購入伝票より算出。 ・原油換算=灯油量×0.96 ・発熱量(原油換算):1(kℓ)=37,209,302(kJ)
総エネルギー使用量	24・25	・電気+ガス+石油(灯油)-太陽光発電量
温室効果ガス排出量	24・25	・温室効果ガス排出量=電力のCO ₂ 換算値+ガスのCO ₂ 換算値+石油(灯油)の換算値-太陽光発電量 ・電力のCO ₂ 換算:1(kWh)=0.381(kg-CO ₂) ・ガスのCO ₂ 換算:1(m ³)=2.15(kg-CO ₂) ・石油のCO ₂ 換算:1(ℓ)=2.53(kg-CO ₂)
部品・製品総輸送量	24・25	・部品:所定拠点間距離×定期トラック便の運行回数×部品積載量(個数×単位重量) ・製品:製品の販売記録より算出。生産拠点から顧客先都道府県庁所在地までの距離をナビソフトウェアを用い、高速道路優先により算出。
自動車 (部品・製品配送、営業車、サービスカー)のCO ₂ 排出	24・25	4tトラック実測燃費(1,188km/250ℓ=5.4km/ℓ)、10tトラック実測燃費(1,188km/355ℓ=3.3km/ℓ)を用い、製品総輸送距離に乘じ、燃料総量を算出。この量をCO ₂ 換算。 営業車・サービスカー燃料(ガソリン、軽油)の給油伝票より全社の給油量を算出。 この量をCO ₂ 換算。軽油1(ℓ)=2.64(kg-CO ₂)、ガソリン1(ℓ)=2.36(kg-CO ₂)
廃棄物量、有用物量、有価物量、資源リサイクル量、熱リサイクル量、排出物量	24・25	排出物 事業所より排出される直接の用途を持たないもの。排出物=廃棄物+有用物+有価物
		廃棄物(量) 事業所より出される廃棄物で、埋立または焼却処分されるもの。処分業者の処理方法の確認およびマニフェスト伝票より算出。
		有用物(量) 事業所からの排出物のうち、再利用物、資源リサイクル物、熱リサイクル物などをいう。
		資源リサイクル(量) 排出物のうち、粉碎、化学処理などを施し再利用するもの(例:古紙→トイレトペーパー)
		熱リサイクル(量) 排出物を焼却し、その熱を利用するもの(例:ゴミ発電、地域の温水プール)
有価物 排出物のうち、処理費用、運搬費用を減じても有価として取り扱っていただけるもの(例:鉄くず、アルミくず)		
お客様先での電力削減	32	電力削減を行った製品が販売されてお客様がご使用になることにより、どれぐらい電力が削減されたか試算したもの。 電力削減量=代表機種電力削減量(W)×販売台数×24時間×365日×稼働率(60%) 各製品の電力削減値は、販売年より10年分を累積していく。
製品の省エネ	29	従来製品に対する新製品の消費電力量の差の比率。環境試験器の特性上、使用温湿度によって消費電力は大きく異なるため、その製品のもっとも多い使用条件により算出。
外部コミュニケーション件数	35	エスベックグループおよび各事業所において、利害関係者に対してコミュニケーションをとった回数の総和。複数の利害関係者に同時に同一目的でコミュニケーションをとった場合は1件とカウントしている。

9.年表

1940年代

1947年 ■初代社長 田葉井五郎、専務 田葉井敏雄、2代目社長 小山栄一らが、科学機器の製造を目的として、現本社所在地にて創業

1950年代

1954年 ■株式会社田葉井製作所に改組

1960年代

1960年 ■わが国で初めて環境試験器の開発に着手
 1967年 ■大阪大学医学部付属病院にわが国初の本格的な高気圧酸素治療室 (PHC-50) を完成
 1969年 ■プラチナスシリーズ (低温恒温恒湿器・低温恒温器) を発売
 ■恒温恒湿器に複数の冷凍機を搭載し、省エネを実現

1970年代

1972年 ■業界で初めての2年・5000時間の長期保証体制を実施
 1974年 ■無公害工業団地・長田野工業団地に福知山工場竣工
 1975年 ■(株) タバイエンジニアリングサービス<現:エスベックエンジニアリング(株)>を設立
 1978年 ■品質保証部を設立

1980年代

1980年 ■初代社長 田葉井五郎の死去に伴い、代表取締役専務 小山栄一が代表取締役社長に就任
 1981年 ■福知山工場に隣接して環境試験技術センターを竣工
 1983年 ■タバイエスベック(株)に社名変更
 1985年 ■省エネを基本設計思想とした本社ビルを建設
 ■大阪証券取引所第二部へ上場
 ■ESPEC CORP.(U.S.A.)を設立
 ■東京証券取引所第二部へ上場
 ■上海実験儀器総廠(中国)と合併会社設立、契約に調印
 1986年 ■東京証券取引所、大阪証券取引所第一部へ指定替え
 ■上海愛斯佩克環境儀器有限公司を操業
 1987年 ■環境試験技術センター、日本で初のIECQ独立試験所として認定
 ■環境試験の代行一託験を開始
 1988年 ■国際地球科学会議・テレビシンポジウムを協賛
 ■民間と植物工場の業務提携
 ■会社組織に植物工場プロジェクトを設置

1990年代

1990年 ■国際花と緑の博覧会の芙蓉ミュージカルシアターと三和みどり館に協賛
 1991年 ■株式会社新産業創造センター (TRT) の設立に参加
 1992年 ■代表取締役社長 小山栄一が代表取締役会長に、専務取締役 島崎清が代表取締役社長に就任
 ■環境試験技術センター (福知山試験所) がISO/IECガイド25に基づくIECQ独立試験所に認定される
 ■会社組織にフロン対策室を設置するとともに、CFCフロン全廃のための製品開発・技術開発に着手
 ■代替フロンのプリント基板洗浄剤に転換完了
 ■代替フロンの断熱材発泡に転換完了
 ■新産業創造センター (TRT) 内に「鳥取アグリラボ」を開設
 1993年 ■環境試験技術センター (宇都宮試験所) がISO/IECガイド25に基づくIECQ独立試験所に認定される
 ■国際規格ISO9001 (JIS Z 9901) に基づく品質システムの審査登録を取得
 ■コンテナ式植物工場が植物工場学会より開発賞を受賞
 1994年 ■福知山工場が省エネルギーの電気部門において近畿通産局長賞を受賞
 1995年 ■中国電子工業部五所広州模擬環境工程公司与合併会社を設立、契約に調印
 ■環境管理部創設
 ■NEDOとの太陽光発電フィールドテストを開始
 1996年 ■中国電子工業部五所広州模擬環境工程公司与合併会社を設立、契約に調印
 ■京都環境計量センターを開設、環境計量証明事業を開始
 ■エスベックグループ全社環境基本方針を制定
 ■宇都宮テクノコンプレックス内にフューチャーラボ竣工
 ■ISO14001認証取得 (福知山工場)
 1997年 ■広州模擬環境工程公司与合併会社、広州賽愛環境保護技術開発有限公司の設立、契約に調印
 ■塔巴依愛斯佩克環境儀器 (上海) 有限公司を設立
 ■ISO14001認証取得 (宇都宮テクノコンプレックス)
 ■ISO14001認証取得 (タバイエスベックサービス本社事業所)
 ■エコシステム事業推進室を設置
 ■エスベックグループ環境強化週間の運営開始
 ■中国での合併会社の設置による浄水器の開発・販売

■……………事業の沿革

■……………環境に関する取り組み

1990年代

1998年

- 公益信託「エスベック地球環境研究・技術基金」を設置
- ISO14001認証取得(タバイ環境設備大東事業所)
- 環境報告書「エスベック環境マネジメントレポート」(1997年度報告)発行
- エスベック環境管理セミナーを開催。約200社受講

1999年

- プラチナスKシリーズ3機種が「第19回優秀省エネルギー機器表彰」を受賞
- 環境報告書「エスベック環境マネジメントレポート」(1998年度報告)発行
- 環境会計導入
- 仕入先への環境管理活動指導・支援開始
- エスベック環境管理セミナーを開催 約100社受講
- 「グリーン調達」を構築開始

2000年代

2000年

- 上海愛スベック環境設備有限公司を設立(上海愛スベック環境機器有限公司の事業を継承)
- 東京本部を設立
- エスベックグループ全社環境基本方針改訂
- 第2期環境管理中期計画制定
- 環境マネジメントレポート2000発行
- グリーン調達開始

2001年

- ISO14001認証取得(廣州愛スベック環境機器有限公司)
- 韓国エスベック株式会社を設立
- アグリ事業をビジネステーマとする株式会社ミックに事業参加(現エスベックミック株式会社に社名変更)
- 環境試験技術センター(神戸試験所)がISO/IECガイド17025に基づくIECQ独立試験所に認定される
- 東京本部がISO14001認証取得
- 福知山工場が京都府環境トップランナー表彰を受賞
- 環境経営度調査で製造部門14位の評価
- エスベック環境マネジメントレポート2001が、環境レポート大賞 優秀賞を受賞
- エスベック環境マネジメントレポート2001が、環境報告書賞 優良賞を受賞
- 鉛フリーはんだに変更したプリント基板の製造を開始
- 低沸点冷媒回収装置の開発
- 植樹祭「郷土の森づくりを实践する会」を開催
- 宇都宮テクノコンプレックスで環境フェスティバルを開催

2002年

- 代表取締役社長 島崎 清が代表取締役・CEOに、常務取締役 野路井 達が代表取締役社長・COOに就任
- エスベック株式会社に社名変更
- 神戸テクノコンプレックス・エスベック株式会社 本社事業所・さいたまオフィス、名古屋事業所がISO14001を認証取得

2003年

- 株式会社アポロメックがISO14001認証取得
- エスベックグループ全社でのISO14001一括認証取得

2004年

- フジサンケイグループ・日本工業新聞社主催 地球環境大賞 日本工業新聞社賞受賞

2005年

- 第3回日本環境経営大賞 環境経営優秀賞を受賞



■代表取締役 島崎 清が退任

10.CSRレポートの対象範囲

当CSRレポートは、エスペックグループのお客様をはじめとする多くの利害関係者の皆様に対し、エスペックの社会面・環境面および経済面の各パフォーマンスに関する情報の開示を目的としています。ESPEC CSRレポートは、毎年6月末(年1回)に発行します。

1. 準拠した環境報告書ガイドラインなど

環境省-環境報告書ガイドライン(2003年版)
環境省-事業者の環境パフォーマンス指標

2. 対象年度

主に2004年度(2004年4月~2005年3月)の期間を対象とし、過去より継続して実施してきた内容および直近のできごとについても時期を記述した上で掲載しています。

3. 事業の範囲

事業活動全般と製品・サービスにわたる社会的パフォーマンス、環境的パフォーマンス、経済的パフォーマンスについて記述します。また環境保全・改善事業についても取り組んでいますので、その内容についても掲載します。

4. 事業所の範囲

国内エスペックグループの主な事業所の活動結果を集計しています。

編集後記

エスペックグループのCSRレポートとして第1号にあたる、「ESPEC CSRレポート2005」はいかがだったでしょうか？このレポートも「エスペックの森」のようにどんどん成長させたいと思います。そのためにも皆様からのご指摘、ご意見をお待ちしております。

このレポートに関するご意見、ご感想、ご質問などにつきましては、下記までご連絡願います。

エスペック株式会社 総務部・環境管理部
〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6 電話:06-6358-4743 FAX:06-6358-5500

アンケートにご協力ください

Q1 本レポートにてエスペックの社会面・環境面・経済面への取り組みについて、どのように感じられましたか。
(ひとつだけ○印をつけてください)

- 1.かなり評価できる 2.まあ評価できる 3.あまり評価できない 4.まったく評価できない

上記のように感じられたのは、どのような理由からですか。具体的にお聞かせください。

[

]

Q2 本レポートの内容のうち、特に印象に残ったこと・参考になったと思われる項目はございますか。
(いくつでも○印をつけてください)

トピックス

経営者の声明

エスペックの製品

エスペックの環境改善事業

エスペックの概要

社会的側面

- 1.ステークホルダーから信頼されるために
- 2.お客さまへの取り組み
- 3.従業員への取り組み
- 4.株主・投資家さまへの取り組み
- 5.取引先さまへの取り組み
- 6.快適な職場環境づくり
- 7.社会貢献活動

環境的側面

環境マネジメントシステム

- 1.エスペック全社環境基本方針
- 2.環境マネジメント活動概念
- 3.ISO14001一括取得

4.環境マネジメントの体制・組織・責任

5.事業活動と製品・サービスの影響評価

6.法規制およびその他の要求事項

7.緊急事態への準備

8.環境マネジメントシステム監査

9.教育・啓発

環境パフォーマンス

1.物質フロー

2.目標と実績(2000年～2003年)

3.目標と実績(2004年)

4.資源循環と地球温暖化防止への取り組み

5.製品での取り組み

6.開発設計段階での取り組み

7.営業での取り組み

8.サービスでの取り組み

9.物流での取り組み

10.オフィスにおける環境保全

11.環境啓発活動

12.コミュニケーション

13.外部評価エスペックグループ体制図

経済的側面

1.エスペックグループ体制図

2.営業概況・財務ハイライト

3.業績推移

4.セグメント別売上高構成比

5.事業所一覧

6.サイト別データ

7.環境会計

8.算出根拠

9.年表

10.CSRLレポートの対象範囲

アンケート

エスペックの森づくり

具体的にどのようなことが印象に残ったかお聞かせください。

[

]

Q3 本レポートの内容で、もっと詳しく知りたいと思われる項目がありましたか。
上記Q2の項目からいくつでも選んでお聞かせください。

[

]

Q4 社会面・環境面・経済面への取り組みについて、エスペックになにを期待されますか。具体的にお聞かせください。

[

]

Q5 当社から回答を必要とする内容がございましたら、ご記入ください。

[

]

回答手段: 郵送

電話 (電話番号 - -)

FAX (FAX番号 - -)

Eメール(メールアドレス)

Q6 あなたが本レポートをお知りになったきっかけをお聞かせください。
(○印をつけてください)

- 1.エスペックグループの営業・サービス担当
- 2.エスペックグループの代行店・販売店
- 3.エスペック株式会社のホームページ
- 4.環境管理セミナーなどで聞いた
- 5.展示会
- 6.エスペック技術情報誌
- 7.その他 (具体的に:)

■アンケートにご回答いただき、誠にありがとうございました。粗品を送付させていただきます。
差しつかえなければ、あなたご自身についてお聞かせください。

お名前	(フリガナ)	性別	1.男性 2.女性	ご年齢	歳
ご住所	〒				
<input type="checkbox"/> 企業・環境担当 <input type="checkbox"/> 企業・一般 <input type="checkbox"/> 官公庁 <input type="checkbox"/> 自然保護団体・推進者 <input type="checkbox"/> 一般消費者 <input type="checkbox"/> 金融・証券会社 <input type="checkbox"/> マスコミ・出版 <input type="checkbox"/> 大学・学校等 <input type="checkbox"/> 弊社グループの株主 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> その他()					
ご職業 勤務先	部署・ 役職名	エスペック 製品のご利用	1.使用している 2.使用していない		

個人情報の取扱いについて

当アンケートを通じ収集した情報につきましては、弊社CSRの取り組み向上、ならびに、お問合せへの対応の目的に限り使用させていただきます。

エスベックの森づくり

「エスベックの森」は、(財)国際生態学センター 研究所 所長(横浜国立大学名誉教授)宮脇 昭博士のご指導のもと、幼苗植栽手法により土地本来の潜在自然植生を利用した「ふるさとの木による、ふるさとの森づくり」を実践したものです。

「エスベックの郷土の森づくり」をテーマに、2001年6月21日と10月27日、エスベックグループ社員とその関係者、延べ約1,100人が森づくりを通じて地球環境保全を考えるために参加。

ともに汗を流してタブノキ、アラカシ、シラカシなどのポット苗約23,000本を、神戸テクニカルセンターの事業所敷地内(斜面7,500m²)に植樹しました。



植樹直後



2005年6月

事業所内にビオトープを施工

ビオトープゾーン



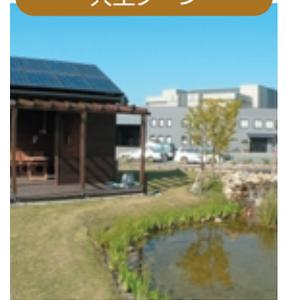
神戸テクニカルセンターに新たに施工されたエスベックのビオトープ「バンビの森」は、共生ゾーン、せせらぎゾーン、ビオトープゾーンの3つのゾーンから構成されており、従業員や近隣の子供たちが、自然と触れ合い、環境について学べるフィールドとなっています。



せせらぎゾーン



共生ゾーン



毎年6月発行

2005.06	第1刷	1000
2005.08	第2刷	3000
2005.09	第3刷	1000
2005.10	第4刷	5000



■本報告書はリサイクル紙を使用しています。

エスペック株式会社

530-8550 大阪市北区天神橋 3-5-6
Tel:06-6358-4741 Fax:06-6358-5500